

公益社団法人 日本理学療法士協会
新型コロナウイルス対策本部
理学療法業務担当 働き方作業部会

報 告 書

2020 年 10 月 5 日

目次

第1章 働き方作業部会の目的と提案	3
1. 本作業部会の設置目的	4
2. アンケート調査からの問題点とその解決策の提案	4
1) 問題点	4
2) 解決策の提案.....	5
第2章 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う働き方への影響調査結果	7
I. 属性.....	8
II. 職場について	11
III. 新型コロナウイルス感染拡大前後のご自身やご家庭の状況等について	20
IV. 妊婦への影響について.....	31
V. 子育てへの影響について	35
VI. 介護への影響について.....	43
VII. 新人（入職1年目）への影響について	48
VIII. 管理者への影響について	51

第 1 章 働き方作業部会の目的と提案

1. 本作業部会の設置目的

公益社団法人日本理学療法士協会（以下、本会）内の新型コロナ対策本部 理学療法業務担当の一作業部会として以下の目的のために設置された。

社会人として、医療職としての新型コロナウイルス感染症拡大に伴う問題点の抽出と、その解決策の提案をすることを目的とする。

その目的のために、緊急事態宣言発出中の職場や家庭（生活）での状況を調査し、問題点の抽出とその解決策の提案をする。

2. アンケート調査からの問題点とその解決策の提案

1) 問題点

- ① 多くの会員ができる限りの感染症への対策を実施していたが、感染症に伴う不安を強く感じていた。

主なものは、感染（本人、家族、同僚等）、媒介者にならないか、
風評被害、休職等による収入面への不安 等

（設問 III-1. 1～13：p20-26）

- ② 妊婦の会員では、感染者のいる病棟患者の担当等の感染リスクの高い現場での就労もあった。

（設問 IV：p31）

- ③ 子育て中の会員では臨時休校などによる急な休み等で、介護中の会員では介護サービスを受けられないことによる休み等で、仕事と家庭の両立に苦労していた。

（設問 V. 1. ・ VI. 1.：p35,43）

- ④ 新人会員では、感染症対策、新人研修、自己研鑽等に対して不安に思っており、新人研修に関しては半数以上が例年より少ない状況であった。

（設問 VII. 1.～5.：p 48-50）

- ⑤ 管理職の会員では、新たな感染症マニュアルの作成やプライベートについても外出の制限等を指示、勤怠調整や職員の精神的なフォロー、他部署・他の事業所との連携等々、多岐にわたり苦慮していた。

（設問 VIII. 9～12・17～20.：55-56,59-61）

- ⑥ 管理者の会員では、都道府県やその支部・ブロック単位でのネットワークが「ない・分からない」との回答が多く、「ネットワークあり」との回答でも活用できていなかった割合が半数近くあった。

(設問 Ⅷ. 14～16. : p57-58)

2) 解決策の提案

- ① 本会として、就労する上で必要な感染症対策ガイドラインの作成、関連学会等の最新情報をホームページ等へタイムリーに掲載する。

また、医師や看護師等が前面で取り上げられているが、理学療法士は患者との接触度合いがより高い職種であるということを、厚生労働大臣や内閣府特命担当大臣等関係行政機関（以下、関係行政機関）へ要望していただきたい。

- ② 本会として、妊婦の感染リスクの高い現場での就労への配慮や休業に伴う代替職員の確保について、関係行政機関へ要望していただきたい。

公益社団法人日本看護協会（以下、看護協会）では、妊娠中の看護職の代替職員の確保・看護職への危険手当を求める要望書を関係行政機関へ提出している。

- ③ 子育て中や介護中などの会員の急な休みや、学校等の臨時休業等での休暇の長期化への対応ができるよう、仕事と家庭の両立に向けた、理学療法職員の確保や連携体制の推進等の要望を関係行政機関へ提出していただきたい。

看護協会では、子供の休校・休園に伴う看護職の休業の影響による医療体制の整備も含む要望書の国への提出や、新型コロナウイルス感染症に関する看護職のメンタルヘルスの相談窓口の設置等を実施している。

参考までに、本会のクラブオフでは、シッターや家事サポートを割引で活用できる制度がある。家事や一時の子供の世話、保育園や幼稚園への送迎をアウトソーシングすることも視野に入れておくと、一助になりうるかもしれない。また、緊急事態宣言が出ていない時でも、今後に備え、時差出勤や時短勤務ができるような環境づくりを推し進めるよう国へ要望していただきたい。

- ④ 本会として、新人会員を筆頭に全会員の感染症対策、研修、自己研鑽等に対してのシステム構築を図り、そのシステムやシステム構築手段を提供・共有する。また、理学療法養成機関においても、感染症に関するカリキュラムの見直し等に取り組んでいただきたい。
- ⑤ 本会として、都道府県理学療法士会における管理職ネットワークの構築を今一度整備し、情報や管理職の抱える課題等を共有化する。
- ⑥ 都道府県理学療法士会や、その支部・ブロック単位でのネットワークの構築を促進し、情報共有を図る。

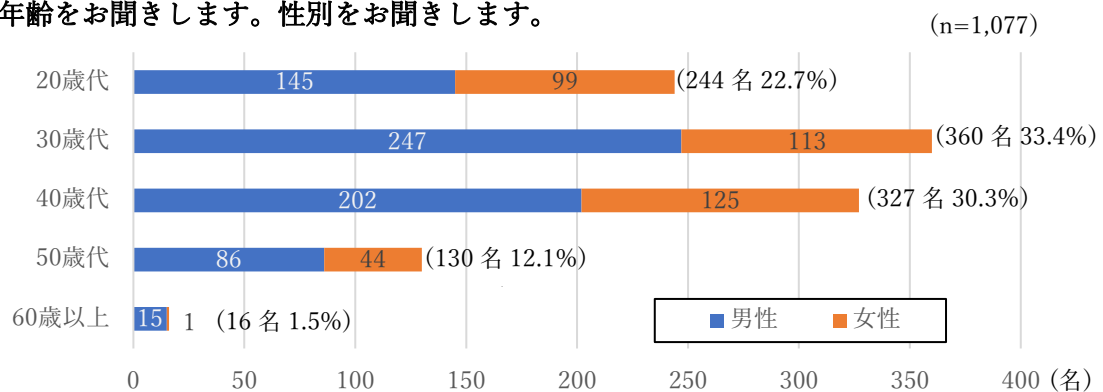
第2章 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う

働き方への影響調査結果

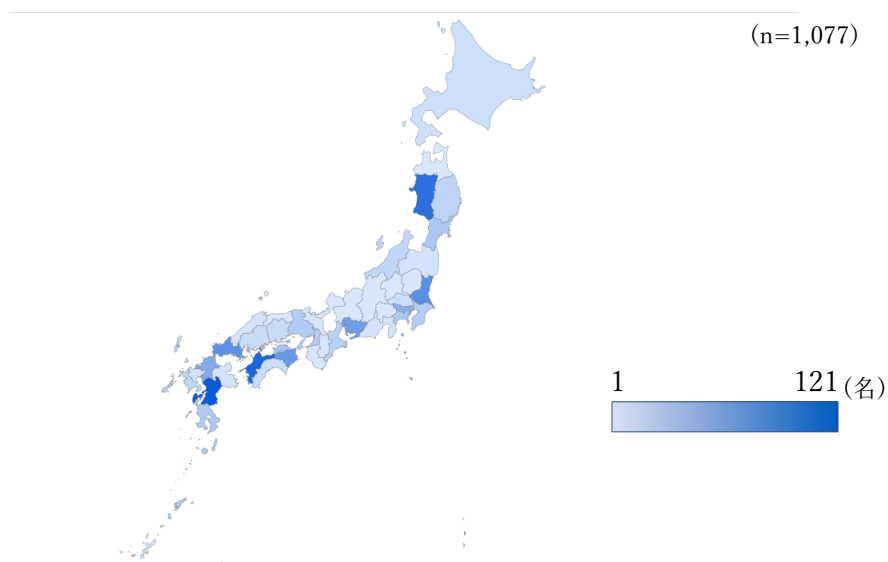
- 目的：緊急事態宣言発出中の会員の働き方への影響を調査し、その対策を検討する
- 対象：理学療法士
- 方法：働き方作業部会委員のネットワークを活用し、Google フォームで作成したアンケートの URL を配信、回答していただいた
- 期間：2020 年 8 月 10 日~24 日
- 結果
回答数：1,077 件

I. 属性

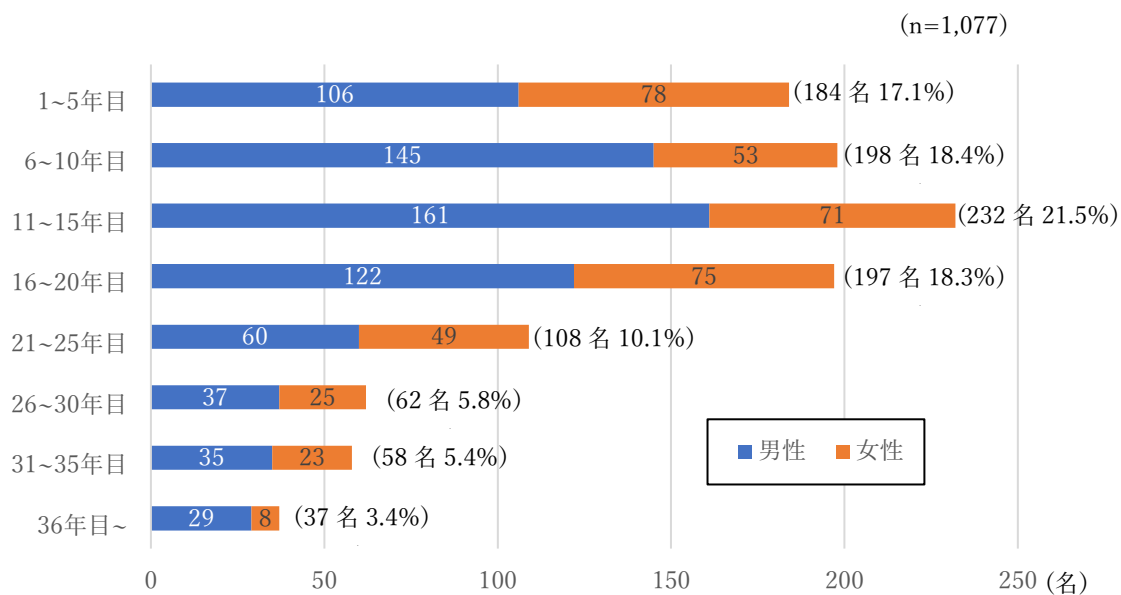
1. 年齢をお聞きます。性別をお聞きます。



2. お住まいのある都道府県をお答えください。

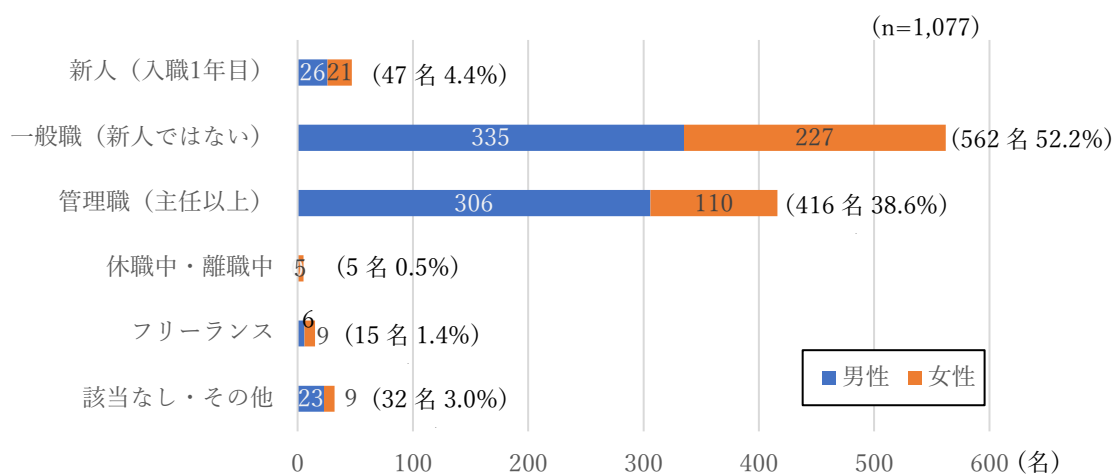


3. 理学療法士免許取得後の年数をお答えください。



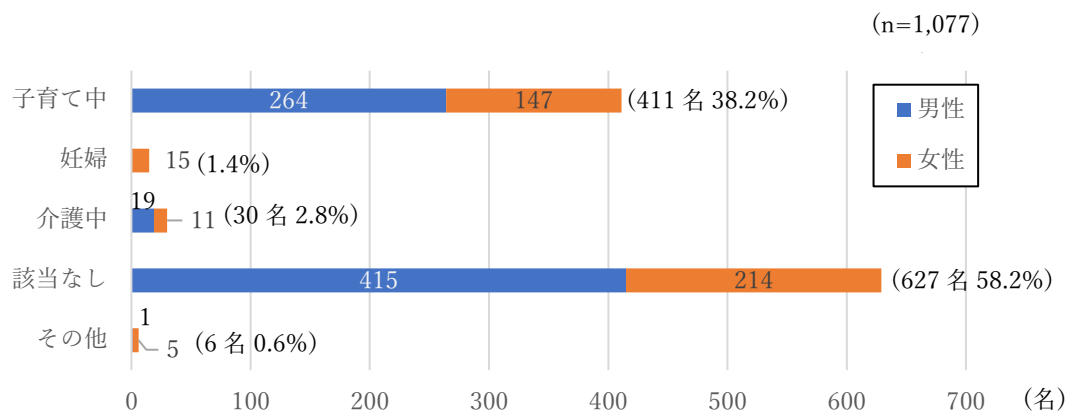
1 年目~43 年目、平均 15.2 年（中央値 16 年）

4. 貴方に当てはまるものをお答えください。



新人（入職 1 年目）が 47 名、一般職 562 名、主任以上の管理職 470 名、
離職中・休職中 5 名、フリーランス 15 名、その他 32 名（該当なし、経営者、
教員、ケアマネ等）

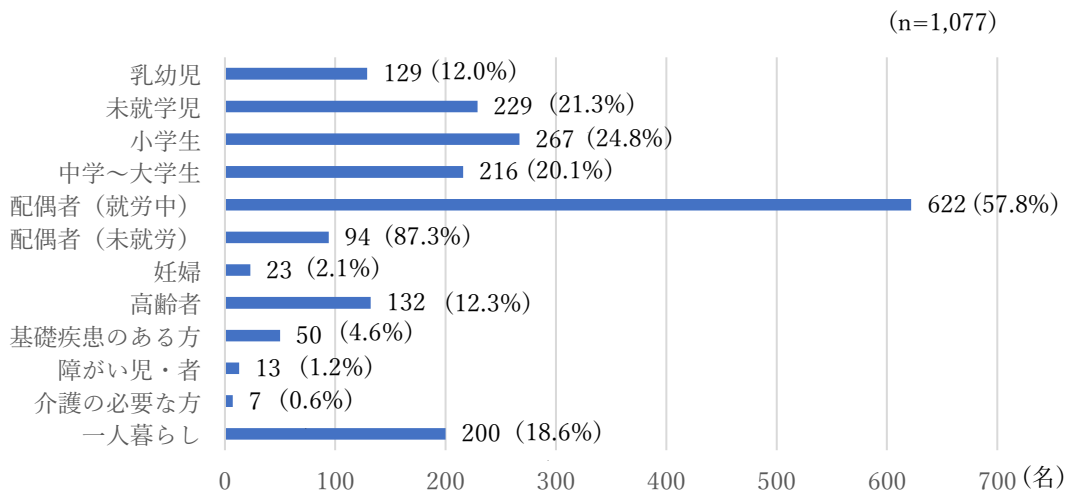
5. 貴方の状況について当てはまるものをお答えください。(複数回答可)



男女ともに、子育て中の方が多かった。

その他として、孫育中 (2)、配偶者が妊娠中 (1)・育休中 (1)、不妊治療中 (1)、週末介護中 (1) 等であった。

6. 同居者されている方はいますか。(複数回答可)



その他：両親、娘夫婦、就労中の子、等の記載があった

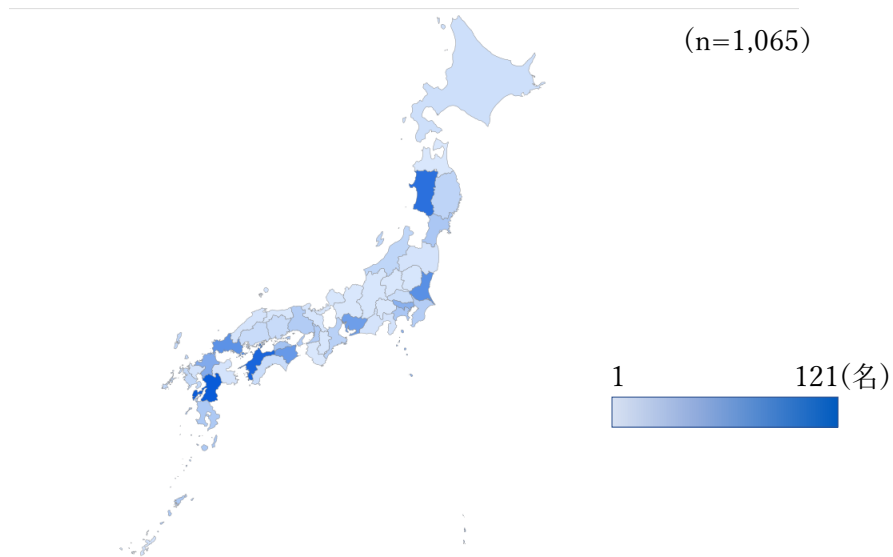
配偶者 (就労中) が最も多く、乳幼児～大学生までの子供が 129～267 名、高齢者 132 名、一人暮らし 200 名、その他であった。

その他としては、両親や子供夫婦、就労中の子供などがあげられていた。

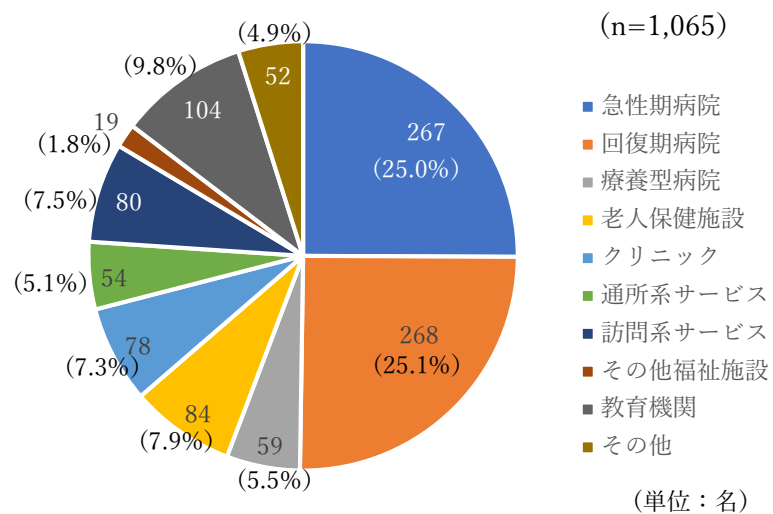
II. 職場について

II-1. 勤務されている所属施設（主たる勤務先）についてお聞きします。

1. 所属施設（主たる勤務先）のある都道府県をお答えください。

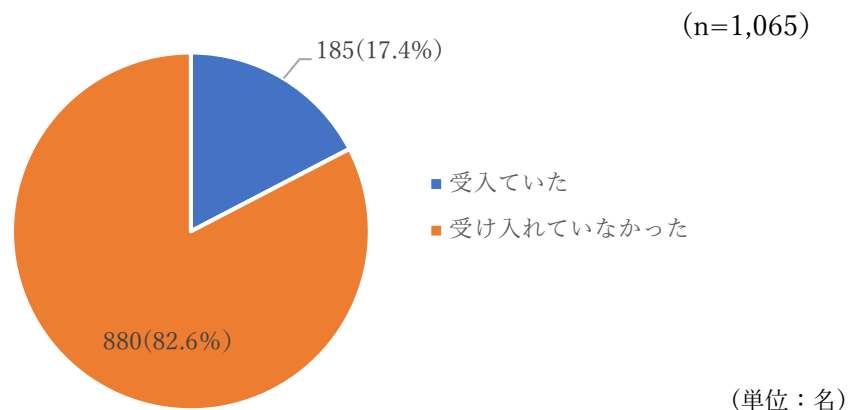


2. 所属施設（主たる勤務先）について、お答えください。いずれか1つお選びください。



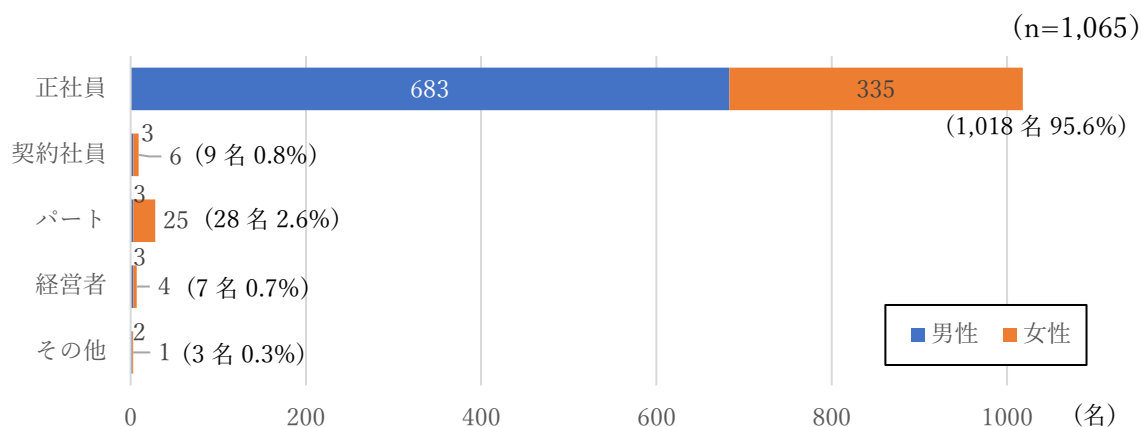
急性期病院・回復期病院が半数を占めており、療養型病院、クリニックも合わせ、医療機関が63%以上であった。

3. 所属施設(主たる勤務先)では、新型コロナウイルス感染患者を受け入れていましたか。



- ・ 受入あり：185 施設（17.4%）
そのうちの 155 施設（83.8%）は急性期病院
その他の施設：回復期（19）、訪問系（3）、老健・行政・教育機関（各 2）、
クリニック・総合病院（各 1）
- ・ 受入なし：880 施設（82.6%）

4. 所属施設（主たる勤務先）における勤務形態についてお答えください。

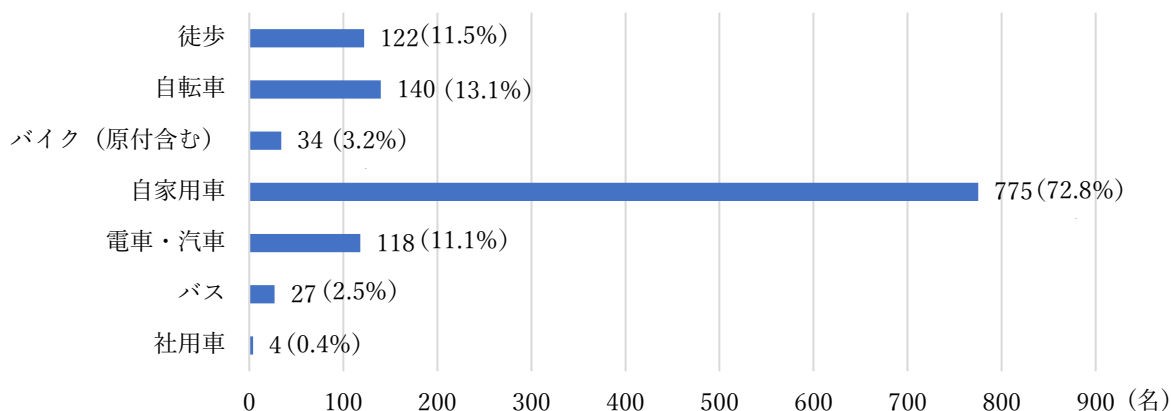


1,065 名のうち、1,018 名(95.6%)が正社員で、次いでパート 28 名(2.6%)、契約社員 9 名(0.8%)、経営者 7 名(0.7%)、その他には会社員・会社役員等があった。

5. 所属施設（主たる勤務先）へは、普段、どのような通勤手段を利用されていますか。

（複数回答可）

（n=1,065）

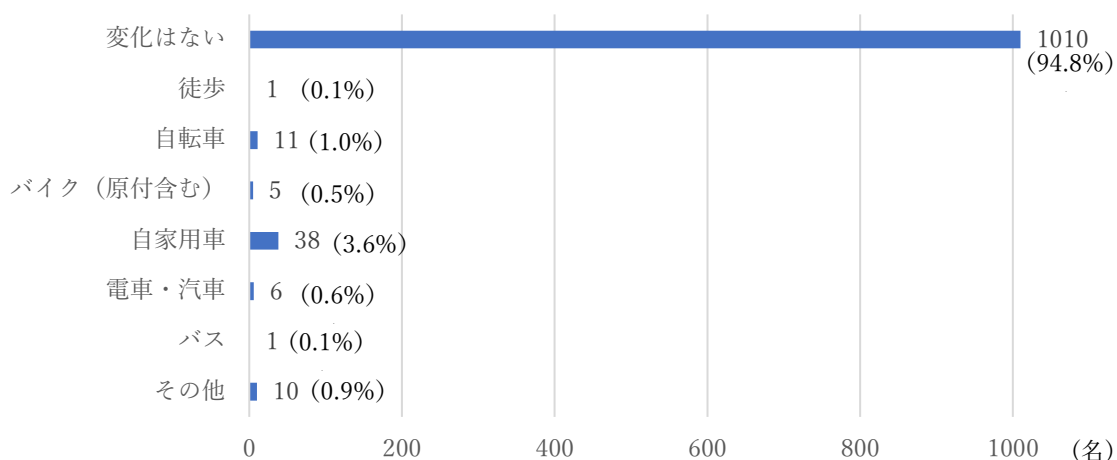


II-2. 新型コロナ感染拡大前後の所属施設（主たる勤務先）の状況等についてお聞きします。

出勤方法や休みについてお聞きします。

1. 新型コロナ感染拡大後、通勤手段に変化はありましたか。変更された通勤手段をお答えください。（複数回答可）

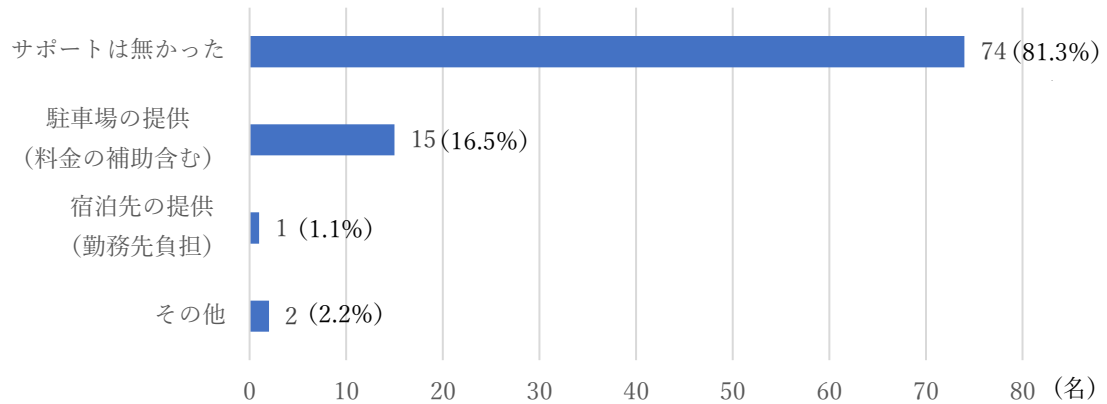
（n=1,065）



通勤手段に変更なしがほとんどであったが、55名(5.2%)は何らかの変更をしていた。その変更後の手段は、自家用車(38)、自転車(11)、電車・汽車(6)、バイク等(5)、徒歩・バス(各1)、その他にはテレワーク(1)、週2回の在宅勤務(1)等があった。

2. 先の質問で「通勤手段の変更があった方」にお聞きします。通勤手段変更の際に、職場からのサポートはありましたか。(複数回答可)

(n=91)

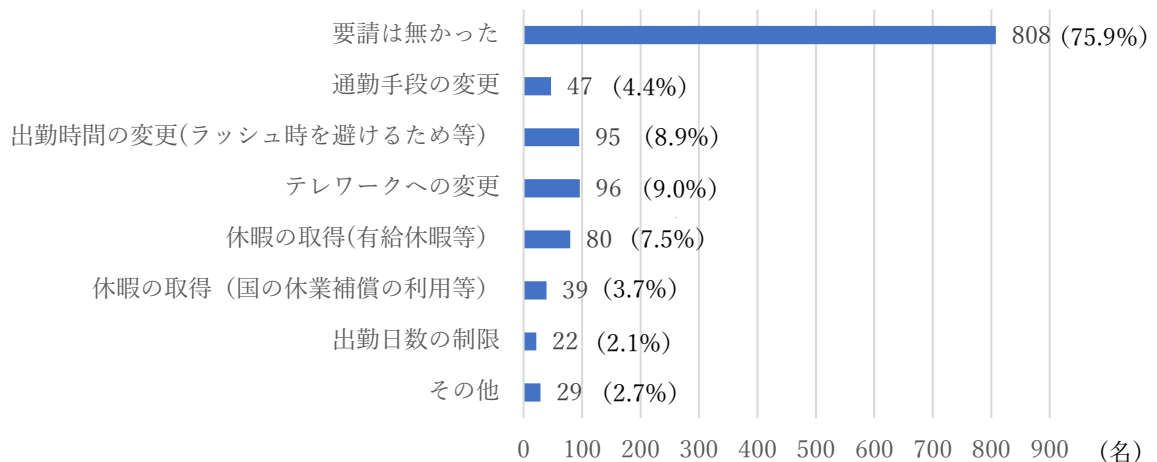


サポートなしが 81.3% とほとんどであった。

サポートありの内容としては、駐車場の提供（料金の補助含む）が多く、その他は宿泊先の提供・定期代返納指示・元々全面的に勤務先負担（各 1）であった。

3. 出勤に関して、勤務先から以下のような要請がありましたか。(複数回答可)

(n=1,065)



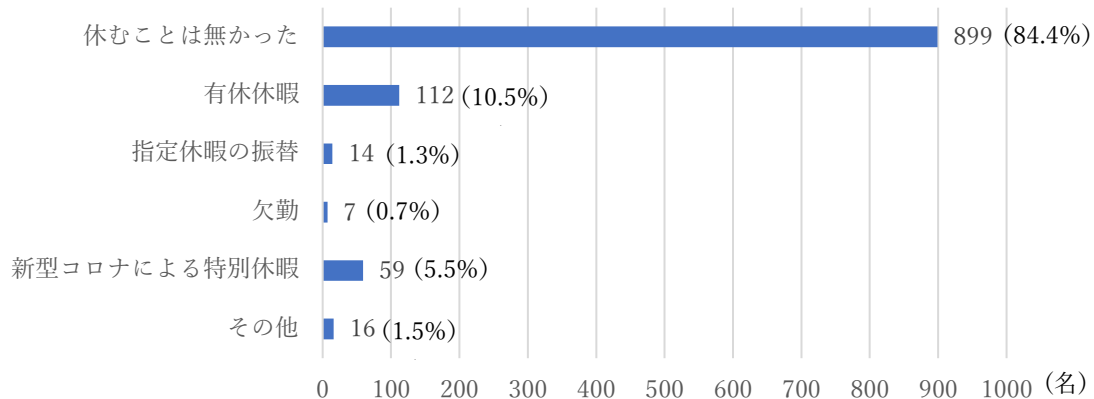
勤務先からの要請は、特になかったのが 808 名 (75.9%) と大半を占めていた。

勤務先からの要請としては、3 密を避けるような通勤手段の変更や出勤時間の変更、休暇の取得等であった。その他として、外来患者数によって出勤日数の調整や職場内での移動制限、感染対策の徹底等があげられていた。

4. ご自身の体調不良以外で、新型コロナウイルス感染症の影響で休むことはありましたか。

休む際の取り扱いをお答えください。(複数回答可)

(n=1,065)

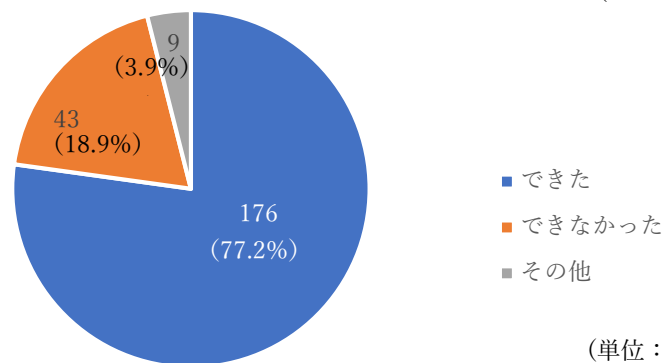


899 名 (84.4%) は休むことが無かったと回答していた。

休むことのあった方は、有給休暇、新型コロナによる特別休暇、指定休暇の振替を利用していたが、欠勤もあった。その他としては、時短勤務や検査のための休みなどがあげられていた。

5. 先の質問で「休むこととなった方」にお聞きします。休むことになった際に、休みの取り方について勤務先に相談できましたか。

(n=228)



(単位：名)

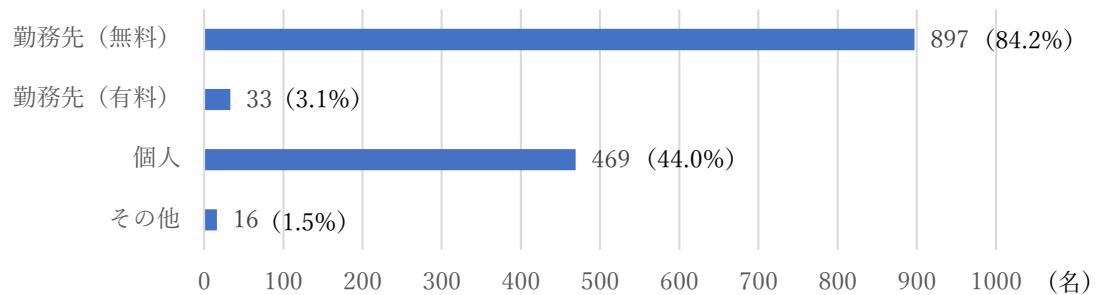
176 名 (77.2%) は相談できていたが、43 名 (18.9%) はできなかったと回答していた。その他の回答としては、パートのため該当なし、院長の指示、相談しなかった、自主的な休業等があげられていた。

II-3. 勤務先の感染予防対策についてお聞きます。

1. 新型コロナ感染予防対策のための「マスク」は、どのように用意されましたか。

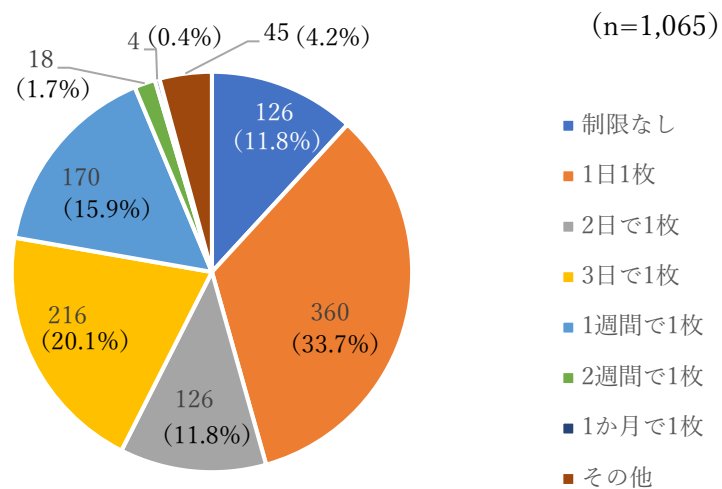
(複数回答可)

(n=1,065)



大多数が勤務先（無料）で用意されていたが、個人で用意していた方も多くいた。中には勤務先（有料）もあり、その他としては枚数限定での配布や寄付等の回答があった。

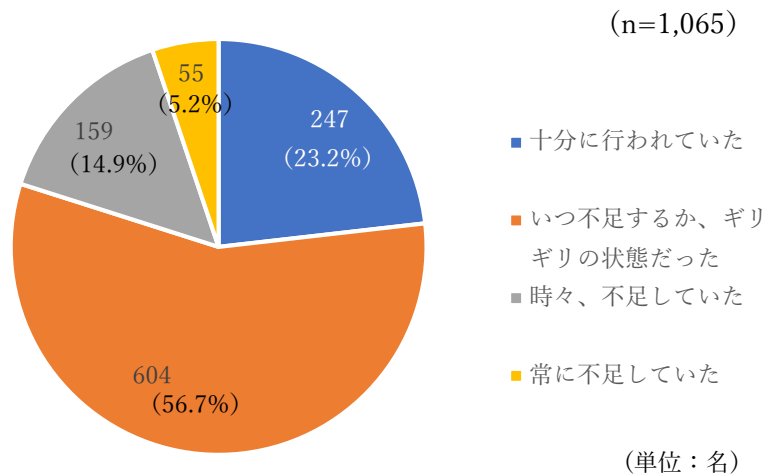
2. 「マスク」の使用制限で、一番制限があった時の状況を教えてください。



(単位：名)

マスクは制限なしの回答も1割強あったが、1日1枚が3割強、2日で1枚が1割強あり、中には破損するまで(3)、支給なし(3)、布マスク(12)、感染患者対応時のみの配布(1)との回答もみられ、不足していた状況が伺えた。

3. マスクやアルコール消毒などの物資の確保は、十分に行われていましたか。



物資の確保が十分に行われていたのは 247 名 (23.2%) で、ギリギリの状態との回答が最も多く 604 名 (56.7%)、時々不足が 159 名 (14.9%) であり、常に不足していたとの回答が 55 名 (5.2%) もあり、物資の不足が明らかであった。

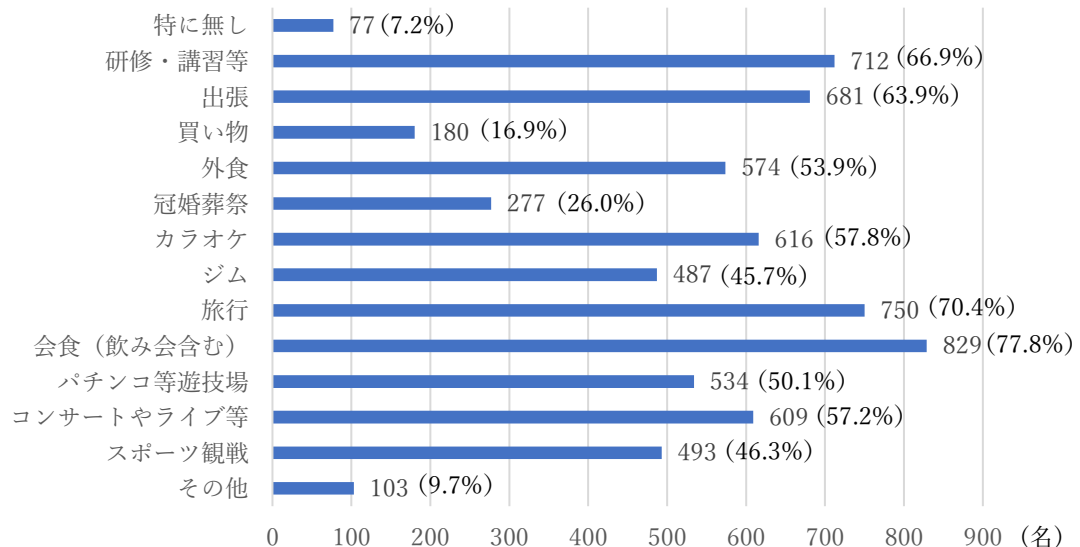
第 2 波・第 3 波に備え、備蓄しておくことが望まれる。

4. 先の質問で、「時々不足していた」「常に不足していた」とお答えの方にお聞きします。
不測の状況に対して、どのように対応されていたか、具体的にお答えください。

- ・ マスクやアルコールを個人で用意していた (40)
- ・ 手指消毒を消毒薬ではなく、手洗いとして徹底していた (34)
- ・ 使用の制限・節約をしていた (27)
- ・ マスクを洗濯していた (16)
- ・ 布マスクを使用していた (12)
- ・ 不織布でマスクを手作りしていた (10)
- ・ マスクの内側にガーゼを当てて、それを交換していた (12)
- ・ マスクの寄付・寄贈品で対応していた (3)
- ・ アルコール綿を薬剤部で製作していた (2)
- ・ ガウンは洗濯、ゴーグルは消毒、N95 マスクも消毒して複数回しようしていた
- ・ 患者と接するスタッフや急性期病棟や外来等と往来するスタッフが優先的にマスク着用
- ・ マスクは優先部署への配配布、リハは配布が無く手作りマスクで対応している
- ・ 医療処置以外での着用には枚数制限していた

5. 所属施設（主たる勤務先）から、国内外を問わず、利用や参加を控えるように言われていたものをお答えください。（複数回答可）

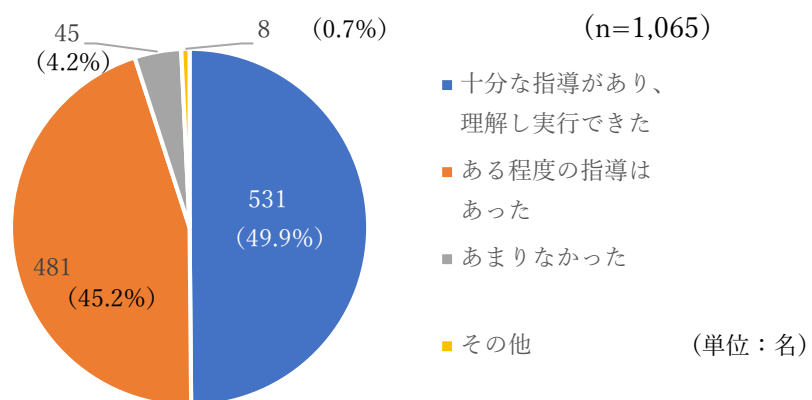
(n=1,065)



多くの方が、研修・講習等や会食（飲み会含む）、旅行、出張、外食等の利用や参加を控えるように言われていた。その他に関しても、不要不急の外出や県外移動、3密となる場所、スポーツ活動など、基本的には3密になる場所の利用や参加を控えるように言われていた。

6. 所属施設（主たる勤務先）での感染対策指導は十分にありましたか。

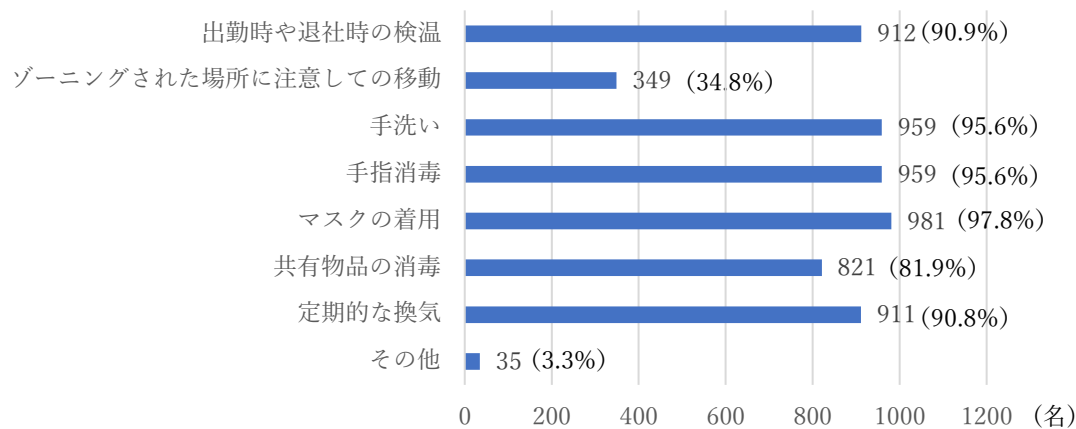
(n=1,065)



十分な・ある程度の指導はあったとほとんどの方(95.1%)が回答していたが、あまりなかったとの回答が45(4.2%)あった。その他の回答としては、看護部主導で決めた、自身の判断や施設の基準に従った、ガイドラインに従うよう指導された、上司からの指導と情報収集して部内で決めた、経営者なので自己責任、等の回答であった。

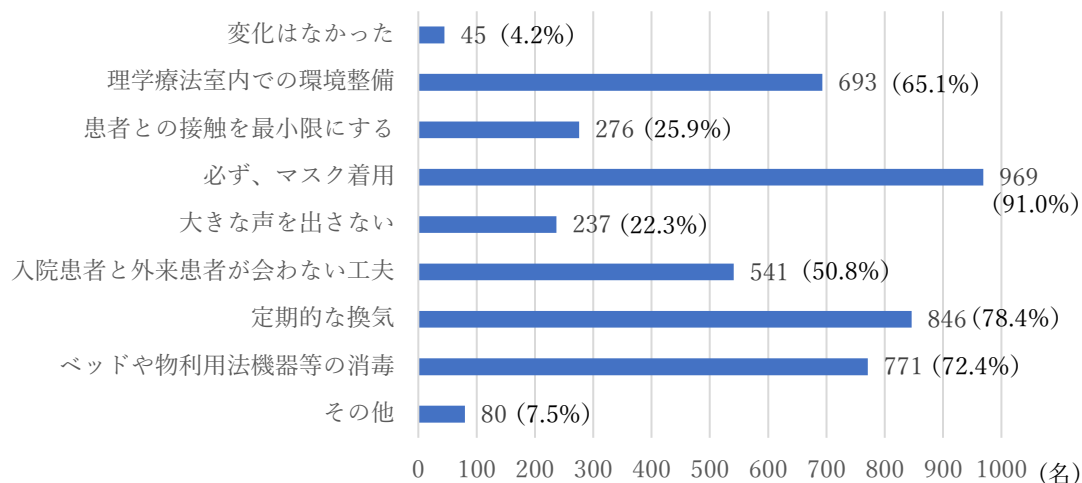
7. 先の質問で、「十分な」「ある程度」の指導があったとお答えの方にお聞きます。

どのような指導があったのかをお答えください。(複数回答可) (n=1,065)



ほとんどの方が、検温、手洗い、手指消毒、マスクの着用、共有物品の消毒、換気を回答していた。ゾーニングされた場所に注意しての移動は 349 (34.8%) と少なかったのは、感染症患者を受け入れていない施設が多くゾーニングまでの対応をされていなかったのではないかと推測する。

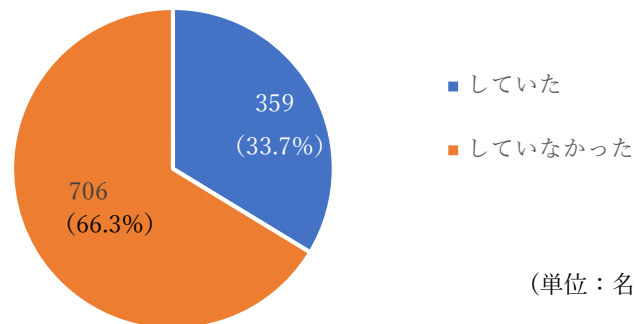
8. 新型コロナ感染拡大防止に向けた「理学療法業務を行う際の対応」に変化はありましたか。(複数回答可) (n=1,065)



理学療法を行う際の対応として、マスクの着用、定期的な換気、物品の消毒、環境整備、入院患者と外来患者が会わない工夫などを実施していた。その他の対応としては、フェイス・アイシールドの着用、リハ室内の人数制限、病棟訓練への変更、訪問時の体調確認、遠隔・オンライン授業等との回答があった。

9. スタッフルーム等の人が多く集まる場所では、机間に仕切りを置くなどの飛沫防止の環境整備をしていましたか。

(n=1,065)



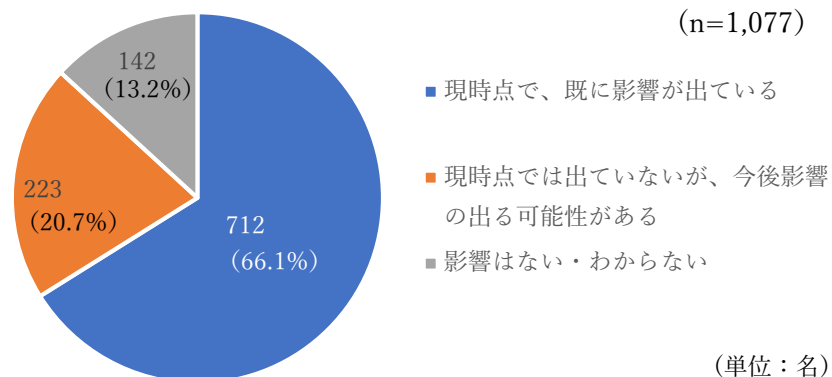
机間に仕切りを置くなどの飛沫防止の環境整備をしていたのは 359 名（33.7%）にとどまっていたが、感染症患者を受け入れていない施設が多く仕切りを置くなどの飛沫感染防止対応をされていなかったのではないかと推測する。

Ⅲ. 新型コロナウイルス感染拡大前後のご自身やご家庭の状況等について

Ⅲ-1. ご自身の働き方や心身への影響についてお聞きします。

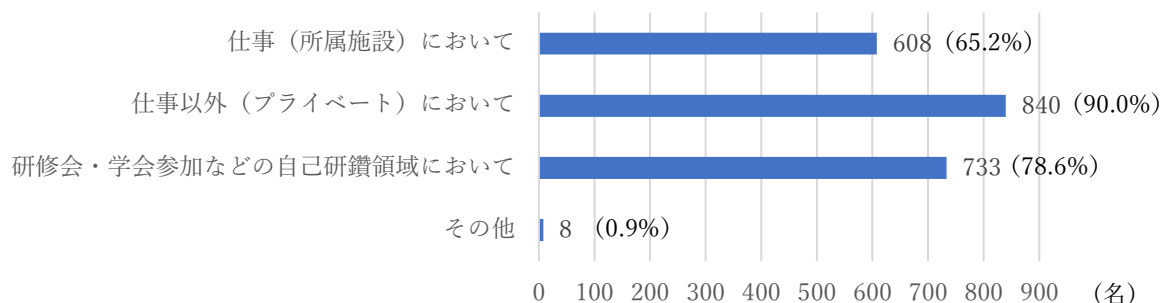
1. 新型コロナ感染拡大を受け、貴方の「働き方や生活」に影響はありましたか。

(n=1,077)



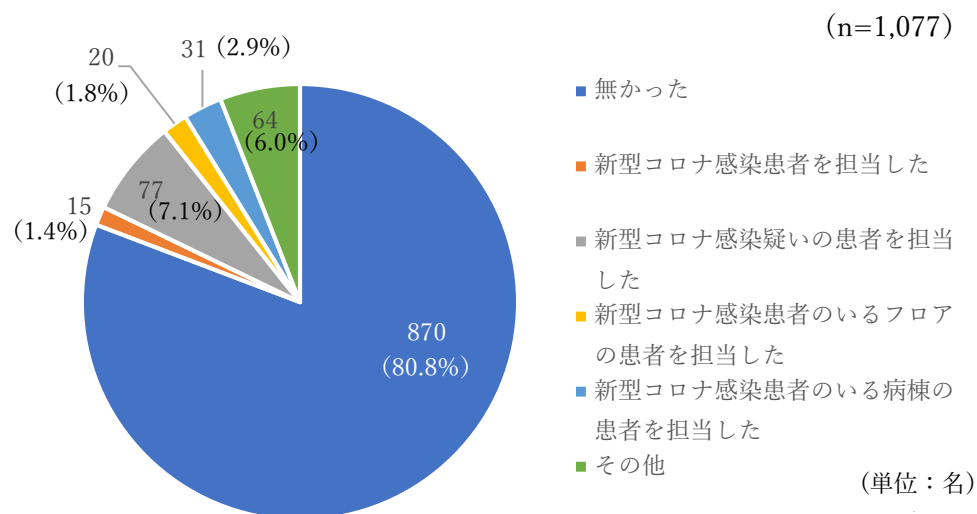
1,077 名が回答し、新型コロナ感染拡大において「働き方や生活」に現時点ですでに影響が出ていると答えた方が 66.1%（712）、出る可能性があると感じた方が 20.7%（223）で、8 割以上の会員がなんらかの影響を感じている、もしくは出る可能性があると感じていた。

2. 「現時点で、すでに影響が出ている」「現時点では出ていないが、今後影響が出る可能性がある」とお答えの方にお聞きします。影響の出ている・出る可能性のある場面を答えて下さい。（複数回答可）（n=933）



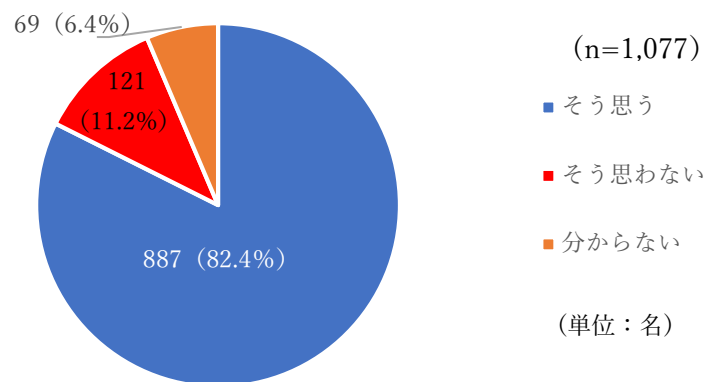
933 名が回答し、仕事（所属施設）においてと答えた方 65.2%（608）、仕事以外（プライベート）においてと答えた方 90%（840）、研修会・学会参加などの自己研鑽領域においてと答えた方 78.6%（733）であった。

3. 新型コロナウイルス感染症への「感染に脅かされそうになった仕事場面」はありましたか。

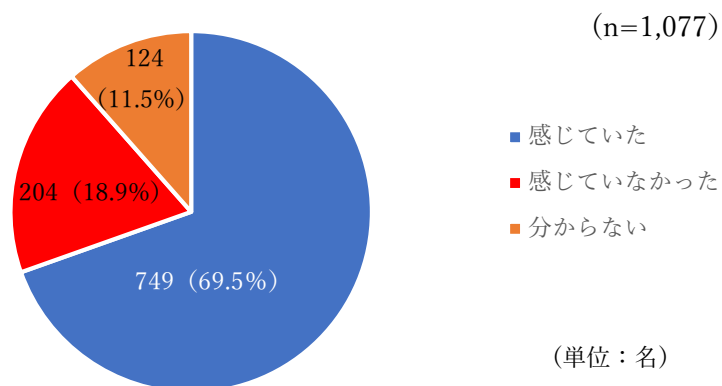


1,077 名の回答のうち、無かったと答えた方が 80.8%（870）と大半であったが、新型コロナウイルス感染患者を担当した 1.4%（15）、新型コロナウイルス感染疑いの患者を担当した 7.1%（77）、新型コロナウイルス感染患者のいるフロアの患者を担当した 1.8%（20）、その他として少数ではあるが感染したスタッフと同じ病棟であった、感染後のリハビリを担当した、濃厚接触者の担当をしたと答えた。

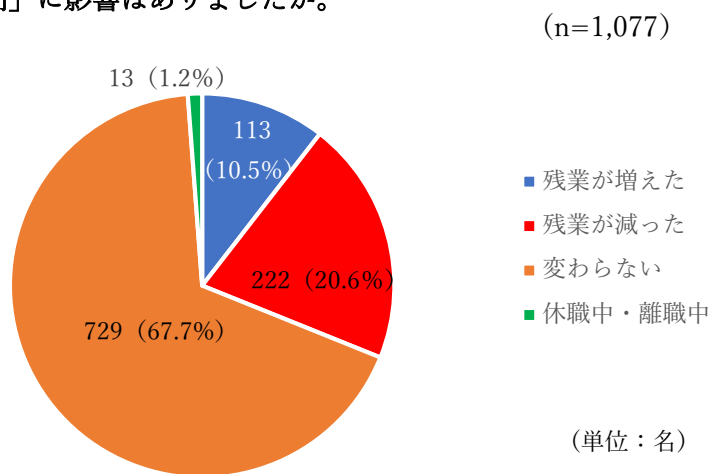
4. 平時と比べ、「精神的な緊張感」を感じながら働いていたり、生活していましたか。



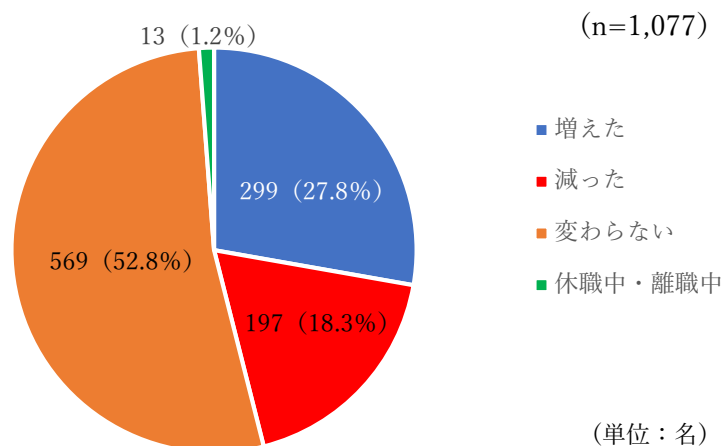
5. 平時と比べ、「疲労感」を感じていましたか。



6. 平時と比べ、「残業時間」に影響はありましたか。



7. 平時と比べ、「業務量」に影響はありましたか。



8. 先の質問で、「増えた」「減った」とお答えの方にお聞きします。増えたり減ったりした業務について具体的にお答えください。

449 名の回答

<増えたと答えた主な内容>

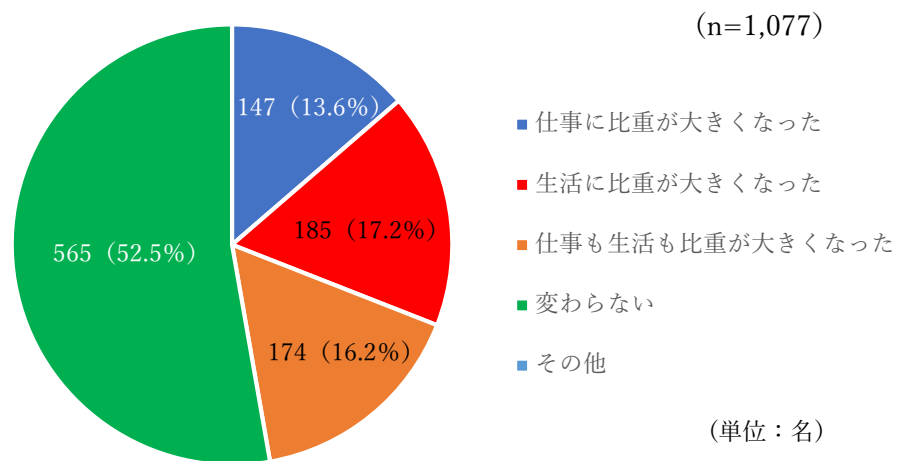
- ・ 消毒等の感染対策業務 (95)
- ・ オンラインや web 等の遠隔授業 (35)
- ・ 病棟担当制やフロア担当導入による患者対応 (32)
- ・ 感染対策に対する会議やマニュアル作成等の業務 (21)
- ・ 検温 (15)
- ・ その他、他入院と外来等の兼務ができないため仕事の偏りができた、補助金申請書類の作成や面談と回答していた

<減ったと答えた主な内容>

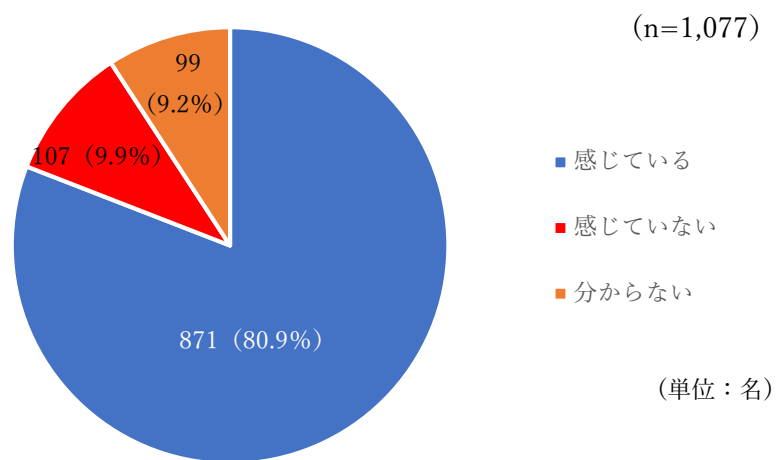
- ・ 患者数や単位の減少 (130)
- ・ 会議・出張 (3)
- ・ 研修 (2)
- ・ カンファレンス (2)
- ・ その他、体制変更による業務効率化の低下等の回答があった

業務量に関係なく、以前と違った業務内容に緊張感や疲労感を感じつつ従事している現状があると思われた。

9. 平時と比べ、「仕事と生活のバランス」は、変化しましたか。



10. 新型コロナ感染について、「感染することへの不安」を感じていましたか。



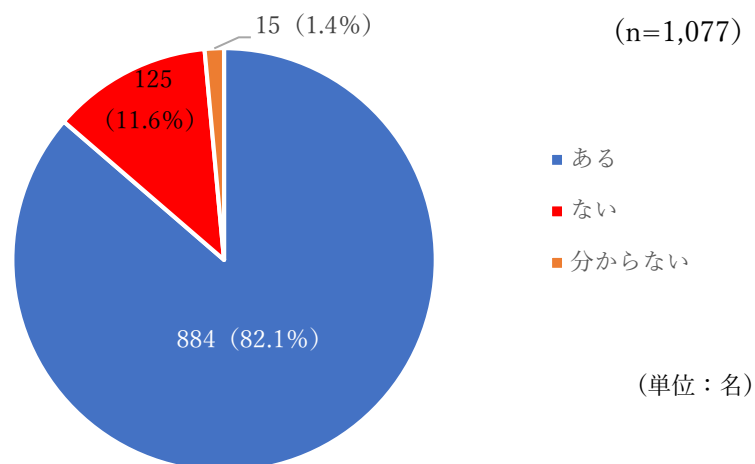
11. 先の質問で「感染することへの不安を感じている」とお答えの方にお聞きします。
なぜそのように感じましたか。具体的にお答えください。（自由記載）

792 件の回答が得られた。

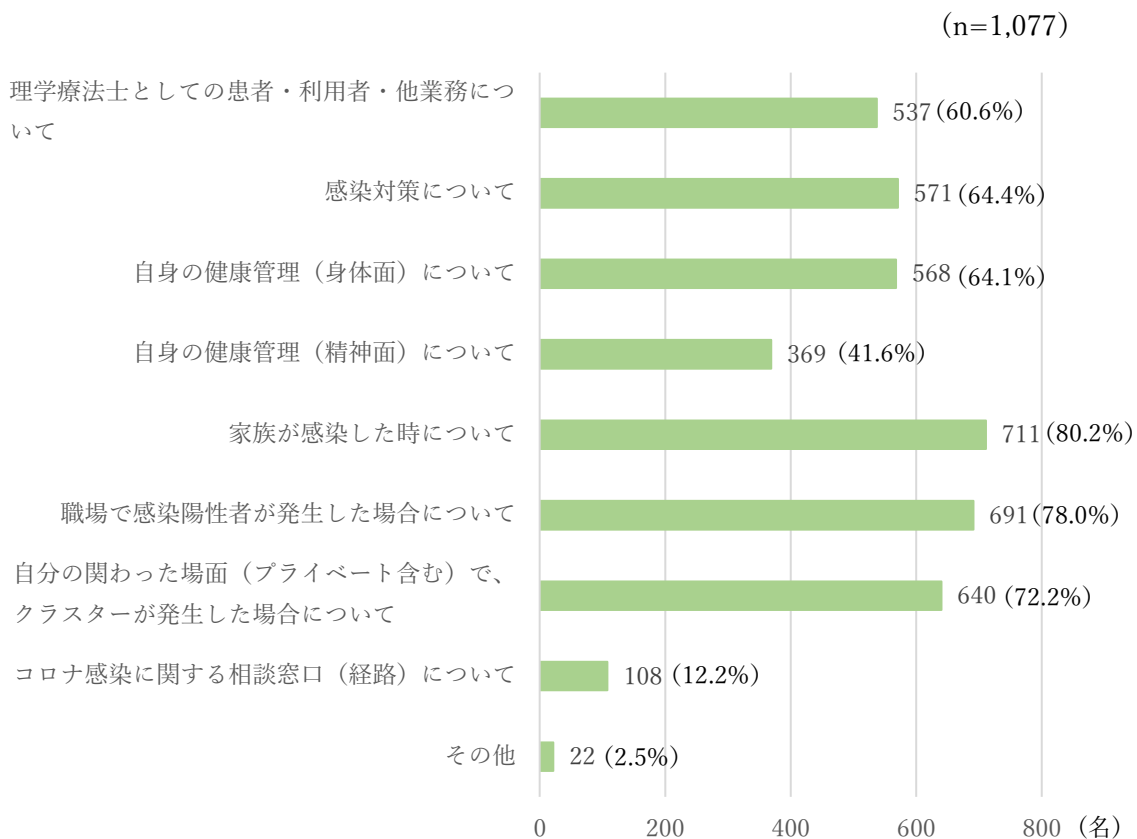
- ・ 自分が感染するかもしれないから（792）
- ・ 市中感染の可能性（27）
- ・ 感染者数の増加（26）
- ・ 感染拡大への不安（21）
- ・ 院内感染リスク（15）
- ・ 風評被害がある（13）
- ・ 自分が媒介者になるかもしれない（4）
- ・ その他、院内や施設内で感染者が発生した場合に対応できない、感染経路不明、感染すると仕事ができなくなる（収入が減少）、職場や患者・利用者に迷惑がかかる、感染すると重症化する不安がある、地域や家族に高齢者が多いから、家族が基礎疾患を持っている、妊娠中のため胎児への影響が不明なため、新型コロナウイルス受け入れ施設のため等の意見があった

仕事と生活のバランスに対して約半数の方が変わらないと答えていたが、80.9% (871)の方が感染することへの不安を感じていると答えていた。その具体的内容は多岐にわたるが、多くの会員が医療従事者として感染することへの不安と媒介者にならないかという不安を日々感じながら仕事や生活をしている様子が伺える。

12. 新型コロナに関連して、「不安や悩み等」はありましたか。



13. 先の質問で、「ある」とお答えの方にお聞きします。「不安や悩みを感じていた」その内容をお答えください（複数回答可）

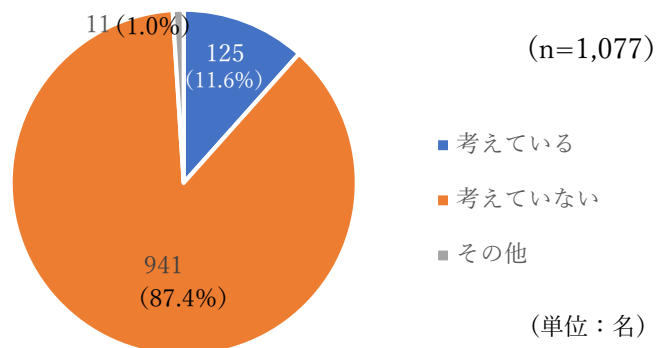


1,077 名が回答した。新型コロナウイルスに関連した不安や悩みがあると答えた方が 82.1%（884）、ないと答えた方が 125 名 11.6%（125）であった。

「ある」と答えた方の多くは、家族や職場で感染者が出た場合の業務や感染対策と答えた方が多く、自分の関わった場面や自身の心身の健康管理にも不安や悩みを感じていたと答えた方も多くいた。

その他、地域へ出向くこと等自身の院外での活動やコロナ差別、風評被害、世間の差別的な認識、実習生の受け入れに対する不安、県外の実家に帰れないことへの不安や悩みを感じていると答えていた。

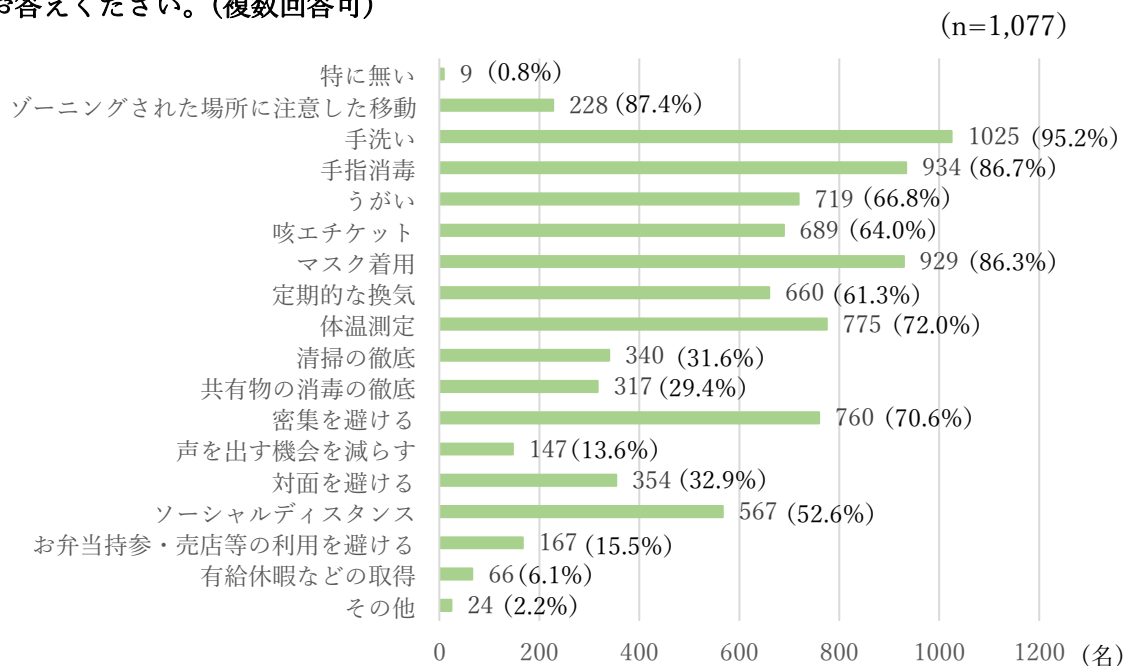
14. 新型コロナの影響により、今後「勤務形態の変更や転職等」を考えていましたか。



勤務形態の変更や転職等を考えていないと答えた方が 87.4% (941) でほとんどの会員が現状は考えていないが、11.6% (125) の会員が勤務形態の変更や転職等を考えていると答えた。その他、少数ではあるが現時点では考えていないが今後不明、実家に戻ろうか考えている、勤務先の対応次第で考えるかも、といった回答があった。

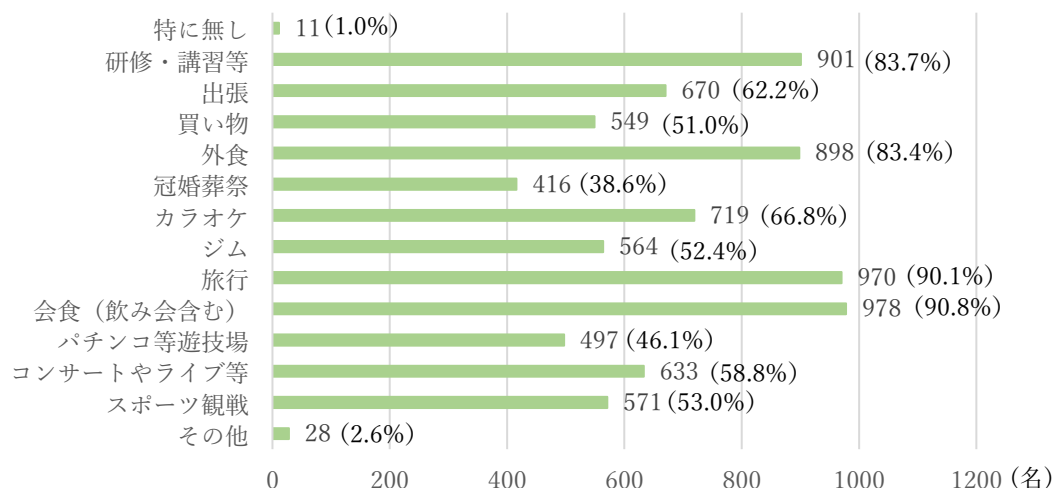
Ⅲ-2. ご自身や家庭での感染予防対策等についてお聞きます。

1. 新型コロナウイルス感染予防対策としてご自身やご家庭で特に気を付けたことをお答えください。(複数回答可)



一般的に言われている手洗い・手指消毒、うがい、マスク着用、咳エチケット、検温、換気や3密を避ける等には注意を払われているが、清掃や共有物の消毒、対面を避ける等徹底が難しいことが伺える。

2. 新型コロナ感染予防対策のため、国内外を問わず「利用や参加を控えたもの」をお答えください。(複数回答可) (n=1,077)

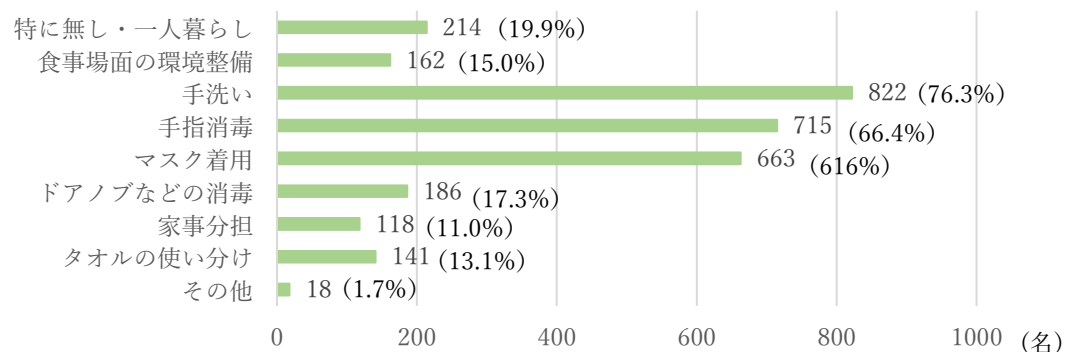


利用や参加を控えたものとして、旅行、会食、外食、研修・講習等への参加を控えていると答えた会員が多かった。

これは理学療法士が医療従事者として現状を真摯に受け止め、控えざるを得ない現状を十分理解できている上で、いわゆる3密を避けている状況が伺える。

何もかもなくなるという虚無感から、安心・安全かつ会員にメリットがあると感じられる研修や講習への再考が必要と思われる。

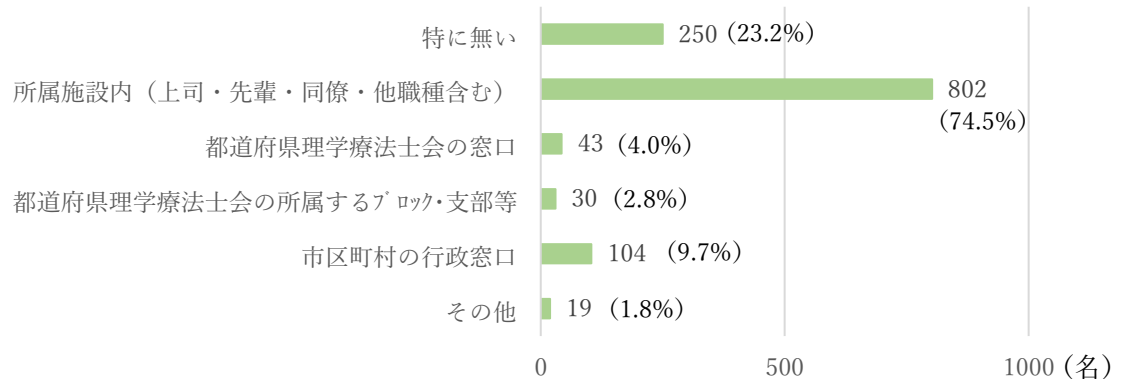
3. 家族など同居者と新型コロナウイルス感染予防対策について、協力していた点についてお答えください。(複数回答可) (n=1,077)



手洗い 76.3%、手指消毒 66.4%、マスク着用 61.6%と新型コロナウイルス感染予防対策として協力して行っている反面、食事場面の環境整備 15%やドアノブの消毒 17.3%、タオルの使い分け 13.1%を家庭に持ち込むことは難しいことが伺える。

4. 新型コロナウイルス感染予防対策に関して、「相談できる環境」は整っていましたか。

(n=1,077)



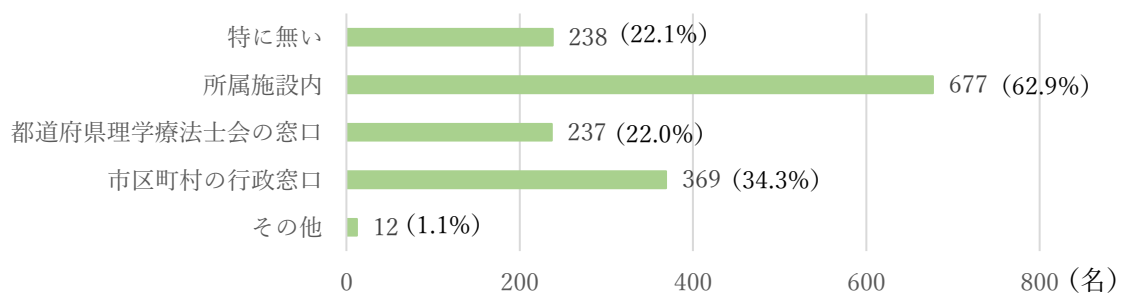
相談できる環境として所属施設内 (上司・先輩・同僚) が 74.5% (802) と答える方が多く、次に市区町村などの行政窓口が多かった。反面、都道府県理学療法士会や所属ブロック・支部等よりも、特になしという回答が多かった。

これについては相談しなくてもよいと感じているのか、それとも相談がしたくても相談場所がないもしくはできないと感じているのかで大きく分かれてくると考える。後者の相談場所がないと感じているのであれば、相談できる窓口等の環境を整え、発信していく必要があると思われる。

その他、少数意見ではあるが、「他のリハビリ実施施設や同グループ施設」や「協会からの動画配信は本当に助かりました」といった回答があった。

5. 新型コロナウイルス感染予防対策に関して、今後「相談や確認」をしたい環境がどこにあるとよいですか。

(n=1,077)



相談や確認したい環境として、所属施設内と答えた方が 62.9% (677) と多く、次に特に無いが 22.1% (238)、市区町村などの行政窓口 34.3% (369)、都道府県理学療法士会の窓口と答えた方が 22% (237) であった。

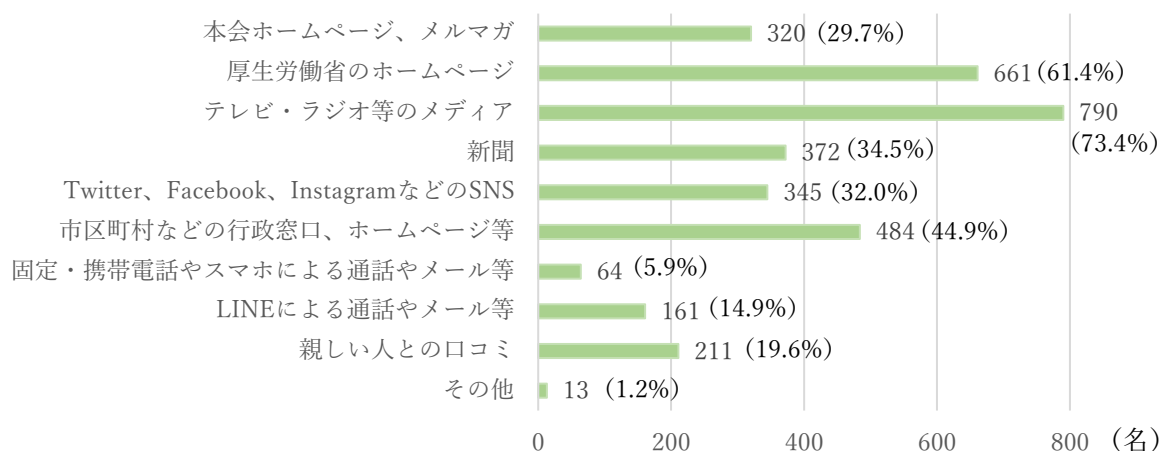
特筆すべきは、市区町村などの行政窓口の次に都道府県理学療法士会の窓口が多いことである。

今後、新型コロナウイルス感染予防対策が長期化する可能性や会員の所属施設を支援していくことを考慮した上で、都道府県理学療法士会の窓口整備等の環境を整える必要性があると感じられた。

6. 新型コロナウイルス感染予防対策に関しての「情報収集源」を教えてください。

(複数回答可)

(n=1,077)



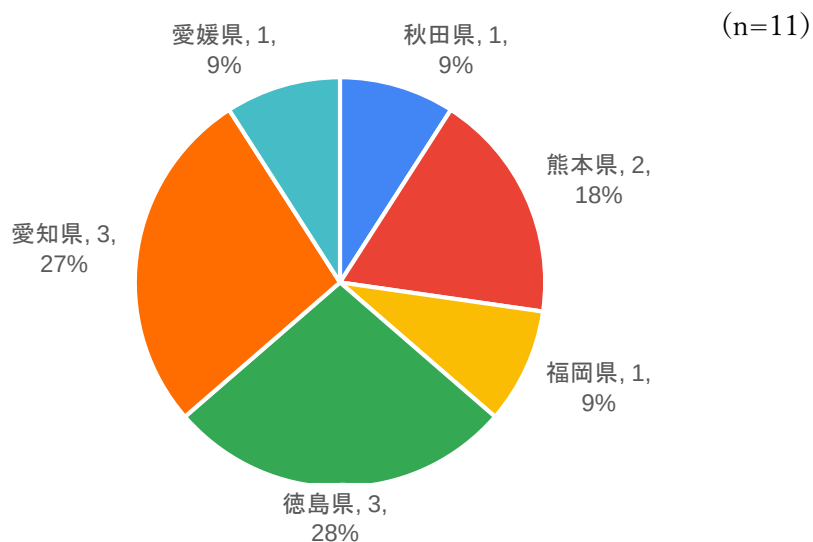
テレビ・ラジオ等のメディアと答えた方が 73.4% (790) と一番多く、次に厚生労働省ホームページ 61.4% (661)、市町村などの行政窓口・ホームページ 44.9% (484)、新聞 34.5% (372)、Twitter、Facebook、Instagram などの SNS が 32% (345)、本会ホームページ 29.7% (320)、親しい人との口コミが 19.6% (211)、Line による通話やメールと答えた方が 14.9% (161) であった。

ここでは本会ホームページよりも Twitter、Facebook、Instagram などの SNS が多いことに着目した。新型コロナウイルス感染予防対策の情報源として、SNS や口コミ等、確実性が不十分なものにでも頼らざるを得ない現状があると考えます。

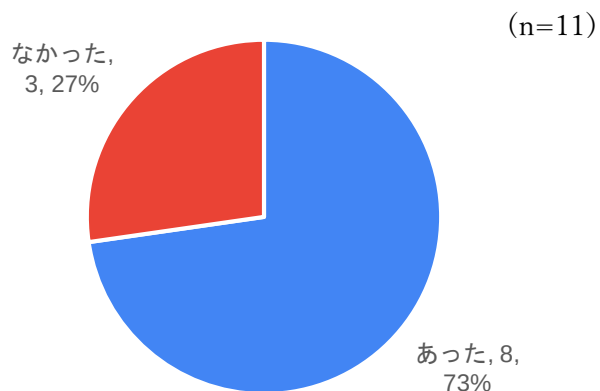
今後、本会のホームページが一番安心・安全な正しい情報であると、周知してもらえるような環境整備や工夫が必要と考えます。

IV. 妊婦への影響について

1,077 名の回答のうち、11 名が緊急事態宣言発出中、妊娠中であった。居住地は下の通りである。なお、妊婦 11 名のうち 2 名が新型コロナウイルス感染症への「感染に脅かされそうになった仕事場面」があったと回答し、「新型コロナウイルス感染患者のいる病棟の患者を担当した」と答えた。

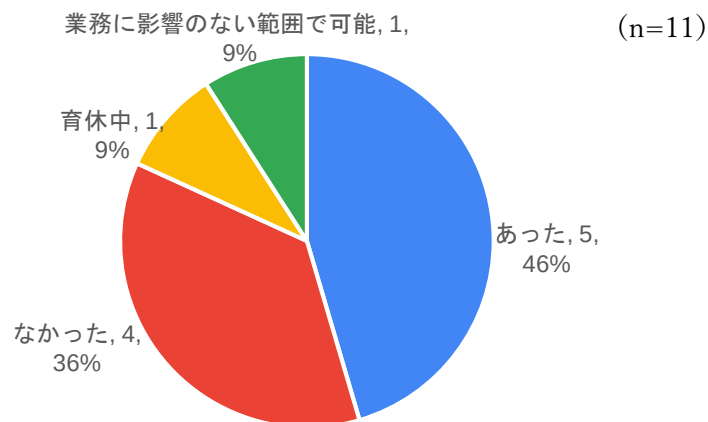


1. 新型コロナウイルス感染症に関し、胎児への影響などの不安はありましたか。



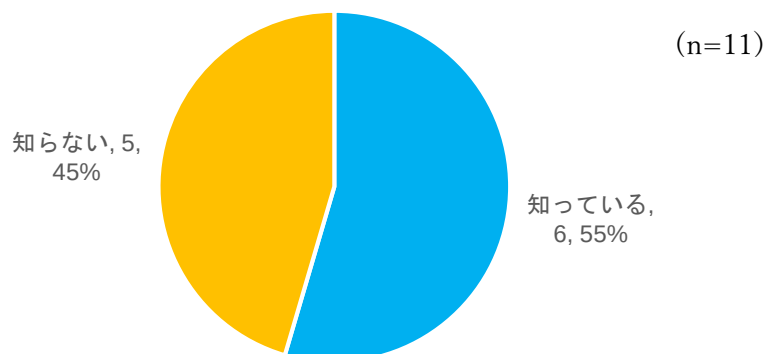
胎児への影響に不安を抱えながら仕事をしていた会員が 73%であった。少しでも不安を解消しながら仕事を続けられる環境の整備が必要と考える。日本産婦人科学会や WHO から出される最新情報により正しい知識をもち、少しずつ不安の軽減をはかる。

2. 体調を踏まえて、休みやすい環境にありましたか。



46%が休みやすい環境にあったと回答したが、36%はそうでなかったと回答していた。妊婦は妊娠経過に伴い体調変化も大きく、コロナ禍では特に体調への影響も大きいと考えられる。理学療法士は接触機会も多いため、本会より改めて妊娠中のスタッフに対する配慮について周知する。また、妊娠中の理学療法士が新型コロナ患者の入院している病棟担当となっている事例が少なからず発生したため、今後は、該当病棟の担当にはならないような配慮を求める。

3. 妊娠中の女性労働者が、その作業等における新型コロナ感染症への感染の恐れに関する心理的なストレスから母体や胎児の健康保持に影響があるため、主治医などから指導を受け、女性労働者から申し出があった場合、作業の制限、出勤の制限（在宅勤務・休業）等の措置を講じなければならないことを知っていますか。

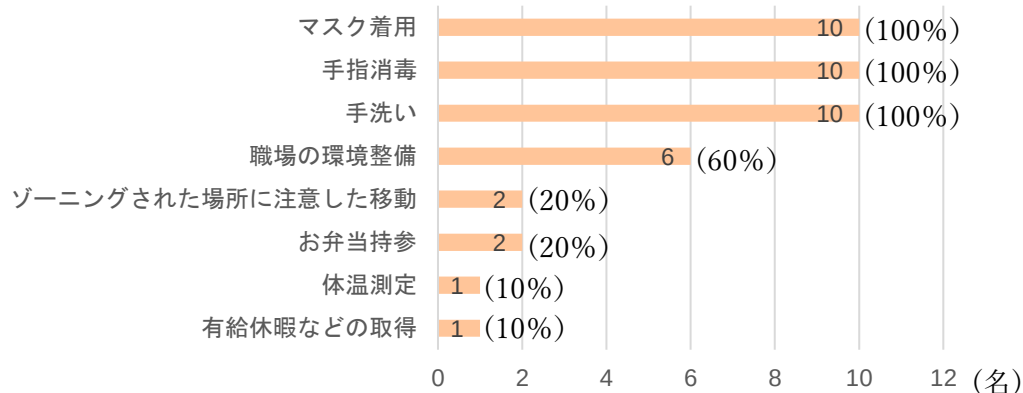


日々の業務に忙しく、政府から適宜出されている制度について把握できていない妊婦会員が45.4%いた。政府からの情報を正確に知り、活用することができていない可能性がある。管理職も含めて、政府からの新たな情報をタイムリーに得られるよう、一定のルートづくりが必要と思われる。

4. 妊娠中であることにより、感染対策として特に気をつけたことをお答えください。

(複数回答可)

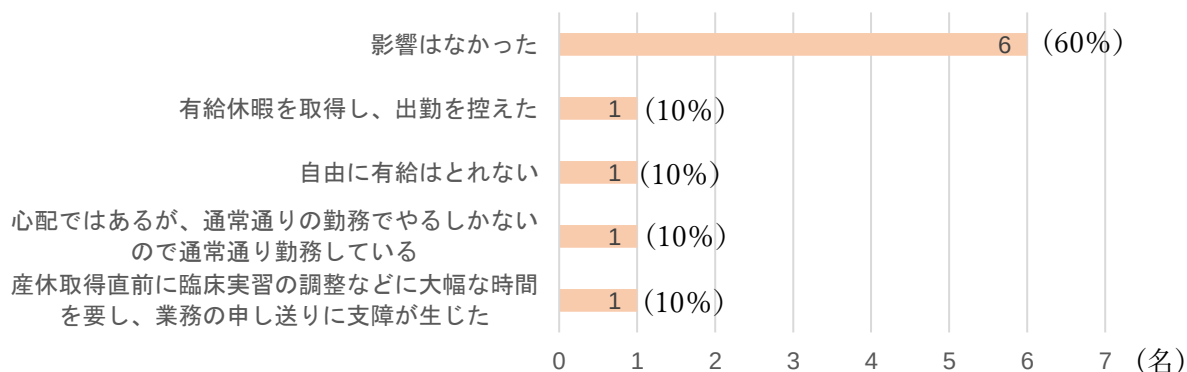
(n=10)



すべての方が感染予防の基本であるマスク着用、手指消毒、手洗いを実施していた。できうる限りの対応を取っている様子が伺えた。一方で、職場の環境整備が進んでいない施設もあることが分かる。第2波、第3波に備えて、感染予防の基本を継続し、環境整備を進める必要がある。

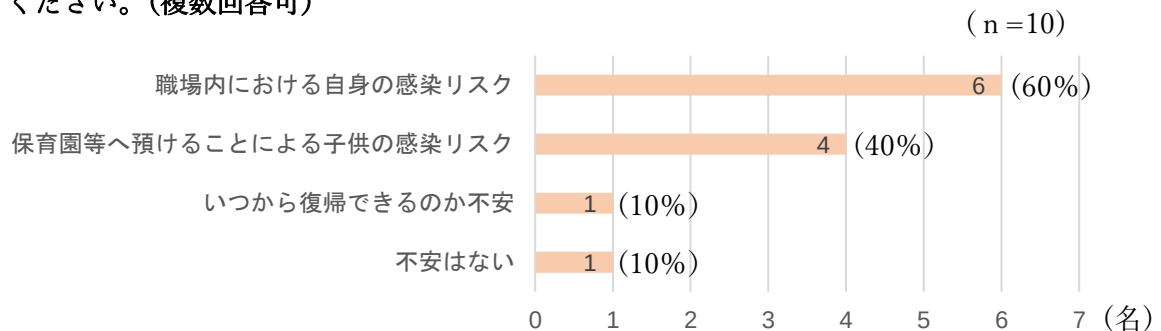
5. コロナ感染症において、貴女の就業への影響はありましたか。どのようなことに影響がありましたか。(複数回答可)

(n=10)



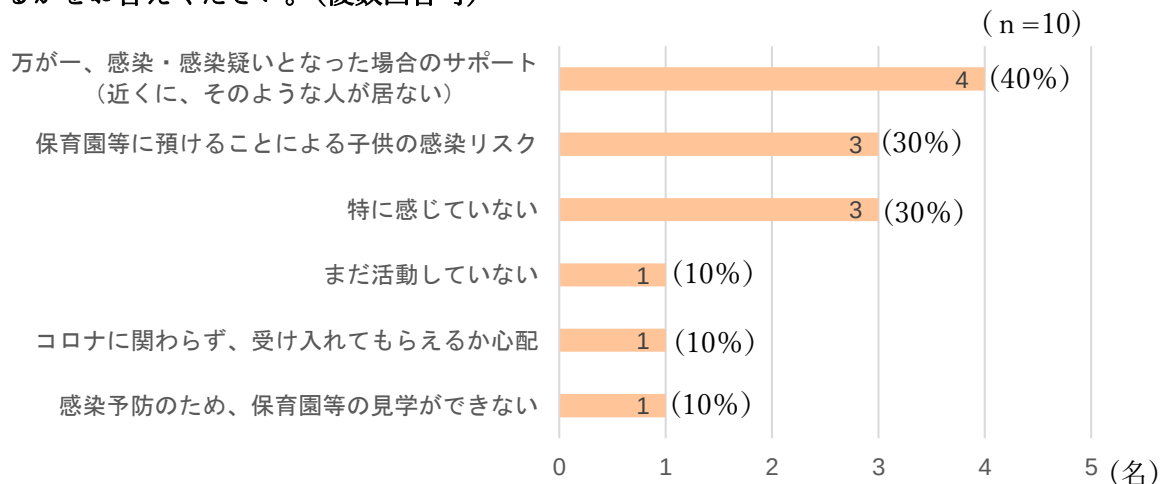
影響はなかったものは60%だったが、なんらかの影響を受けたものが40%であった。産休・育休を取るにあたり、予め段取りをしていた業務の申し送りが、新型コロナ対応のためスムーズにいかず、また有給休暇の取得にも不自由さがみられていた。業務遂行に当たり、チーム制を導入するなど、個人で抱え込まないような体制を整えておく方が良いのではないかな。

6. 産休・育休の後の職場復帰への不安はありましたか。またその不安内容についてお答えください。(複数回答可)



職場復帰への不安について、職場内における自身の感染リスクが 60%、保育園等へ預けることによる子供の感染リスクが 40%となった。これらの不安を少しでも軽減させるため、予め自身の職場や保育園などの感染対策を確認し、自身も対応できるようシミュレーションしておく。

7. 保育園等を探すに当たり、活動の難しさを感じましたか。どのようなことに難しさを感じるかをお答えください。(複数回答可)



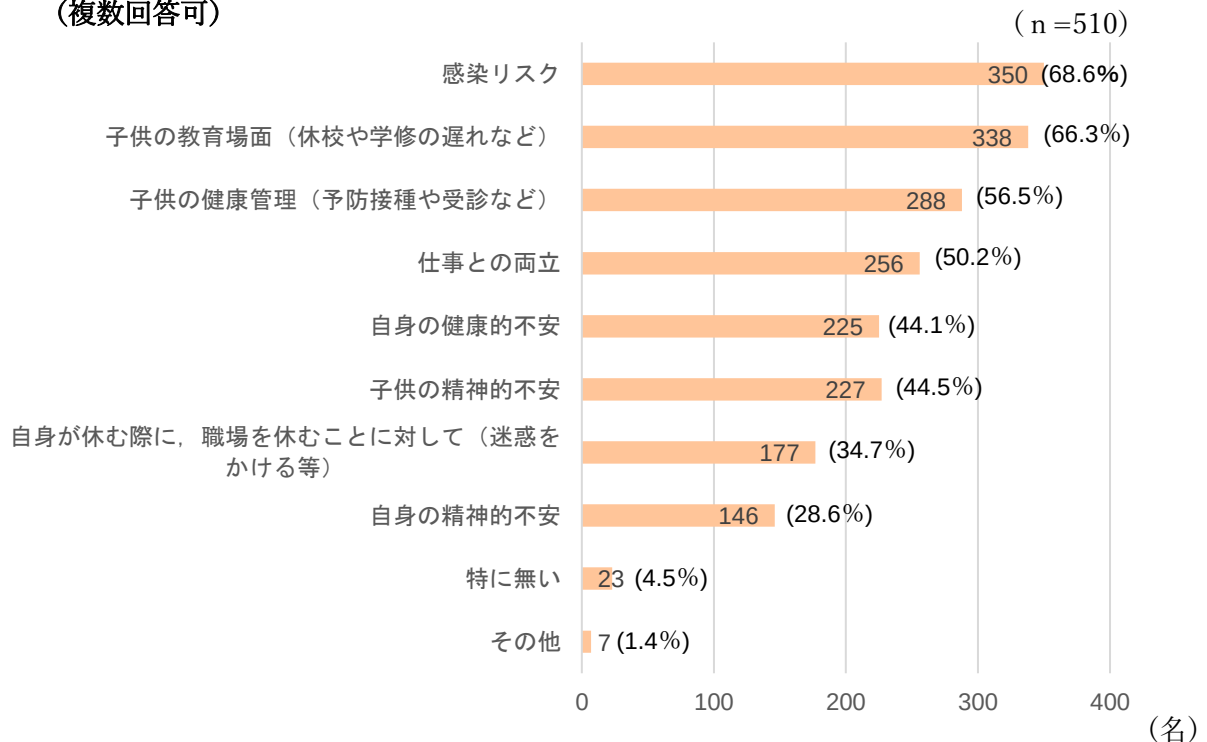
保育園等を探すにあたり、万が一、感染・感染疑いとなった場合のサポートに不安を感じているものが 40%いた。また、保育園に預けることによる子供の感染リスクを感じるものは 30%であった。サポート体制については、家族、勤務先、親族、行政などに相談・確認しておく。また、予め保育園などの感染対策も確認しておく。

8. 新型コロナウイルス感染症に関して、不安に思っていることや気になること等、何かありましたらご記入ください。(自由記載)

- ・ メディアや SNS 等、情報は溢れているが、正確な情報かどうか判断できず世間が混乱していることが気になる。来月育休終了し、仕事復帰予定だが、妊婦のため自分が感染しないようにしたいが、仕事が感染リスクを高めてしまうのでは…と不安。(1)
- ・ 教育現場でも学生の検温や教室の管理、実習を学内で実施するなど多くの対策で業務が非常に多くなっている。また、何が正解なのかよくわからない中での対応は非常に混乱するので、ある程度の指針をだしてほしい。(1)

V. 子育てへの影響について

1. 新型コロナウイルス感染症により、子育ての場面で「貴方」にどのような影響を及ぼしていたか。(複数回答可)



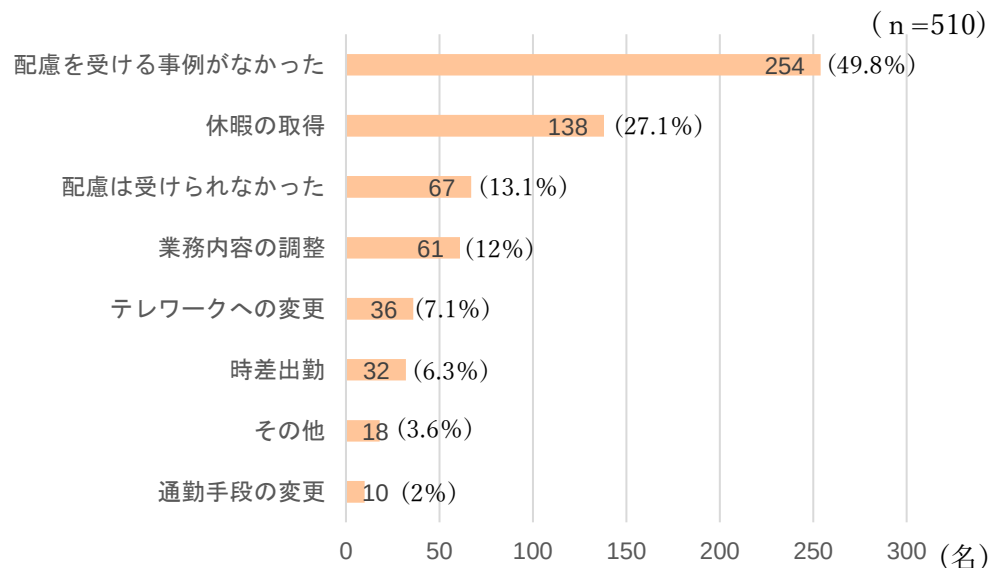
【その他 (自由記載欄)】

- ・ 子供の遊ぶ場所の提供 (2)
- ・ 家族旅行の制限、習い事の制限、外食・買い物の制限 (1)
- ・ 感染拡大地域からの子供の帰省直後の感染の危惧 (1)

- ・ 職場の一部屋を託児の部屋として開放したが、その見回りや部屋の管理を実施しなければならず、仕事への影響はあった。また保育園は 38.0℃以上呼び出しから、37.5℃以上で呼び出しに変更となったため、呼び出しに対して不安はあった (1)
- ・ 理学療法士養成校に在籍している子供の臨床実習など学業面と健康管理（感染拡大地域のため）(1)
- ・ 質問の意図がわからない (1)

子育て場面でも感染リスクや多くの不安を抱えるなど、大きく影響していた。現在、保育園や幼稚園、小・中学校、高校、大学など、感染対策を講じた上で運営している。子供の年代によっても感染リスクの対応が異なる（マスク着用など）ため、日本小児科学会や日本感染症学会の最新情報を確認し、正しい知識を得て活用していく。予防接種や受診控えも約半数にみられるが、接種・受診控えをすることによるリスクもあることを考えたうえでの行動が必要である。子供の精神的不安を最小限にするには、まずは親自身が新型コロナに対する不安を軽減することが大事ではないか。正しい知識を持ち、接することで子供の精神的不安を最小限にできるのではないか。

2. 職場において、配慮を受けることができた点についてお答えください。（複数回答可）



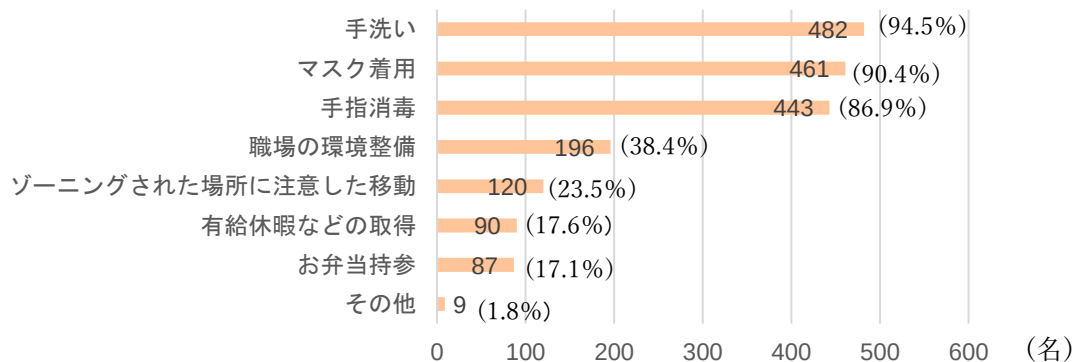
【その他（自由記載欄）】

- ・ 職場に休校中の子供の居場所・託児室を作ってもらえた (3)
- ・ 臨時休校に伴い勤務に配慮が必要かの確認と必要であれば勤務上の配慮は行った (2)
- ・ 自身で生活優先にシフトした (2)

- ・ 子連れ出勤 (2)
- ・ 空き時間の利用 (1)
- ・ 同僚は理解があったが法人が法制度の活用に消極的であり、有給利用を勧められた。有給休暇は本来自由な理由で取れるもののはずで、子供の休校などに伴う休みに対してはその辺りは納得いかなかった (1)
- ・ 業務内容の調整、昼食時、時間・人が密にならない様に時間差で食べる (1)
- ・ 臨時休校中の昼休みの自宅への一時帰宅 (1)

「配慮を受ける事例がなかった」49.8%と半数を占めたが、「配慮を受けられなかった」が13.1%あった。また法制度の活用に消極的である施設もあった。各職場の整備が少しずつ進んでいると思われるが、他施設でどのような工夫がされているかを参考にしながら、さらなる整備を進めると良いと考える。

3. 子育て中であることにより、感染対策として特に気をつけたことをお答えください。
(複数回答可) (n=510)

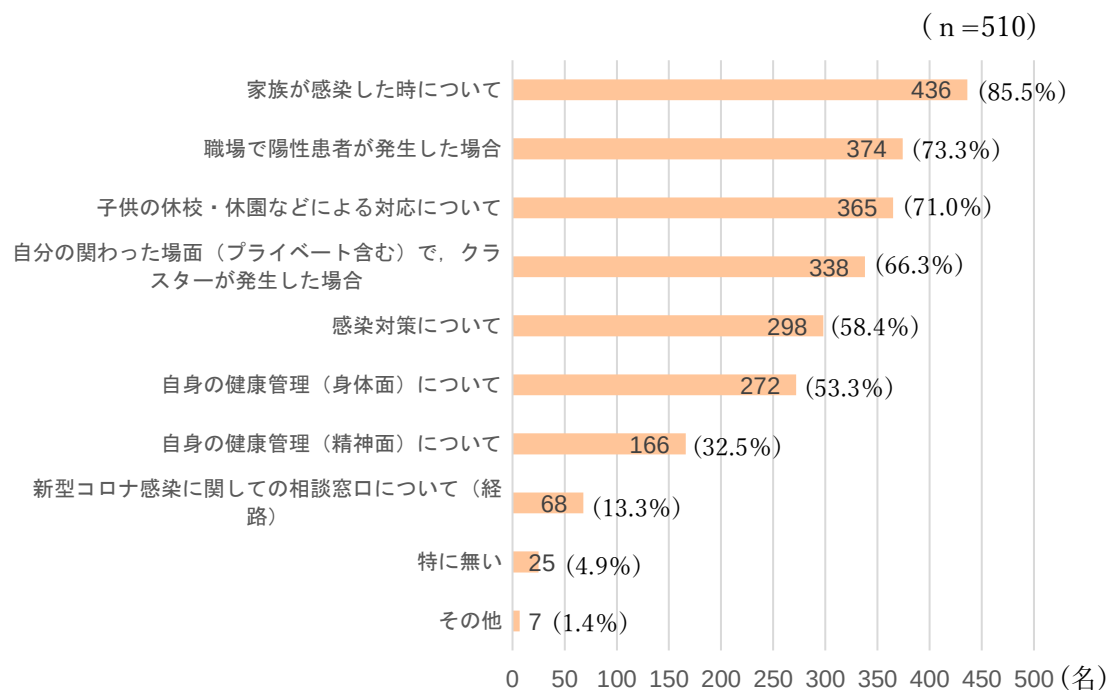


【その他 (自由記載欄)】

- ・ 買い物をした物の消毒 (2)
- ・ 帰ったらすぐに風呂に入る (2)
- ・ 外食中止 (1)
- ・ 不要不急の外出自粛 (1)
- ・ 学校や習い事からのメールの内容を確認し、子供に伝える (1)

個人のできる対応を実施している現状である様子が伺える。しかし、職場の環境整備が進んでいない施設もあった。引き続き、感染対策を積極的に実施していただくと共に、未着手の場合は、職場の環境整備に速やかに取り組んでいただくよう、各職場において提案していただきたい。

4. 新型コロナ感染症に関連して、今後、子育て場面での不安や悩みはどのようなことですか。(複数回答可)



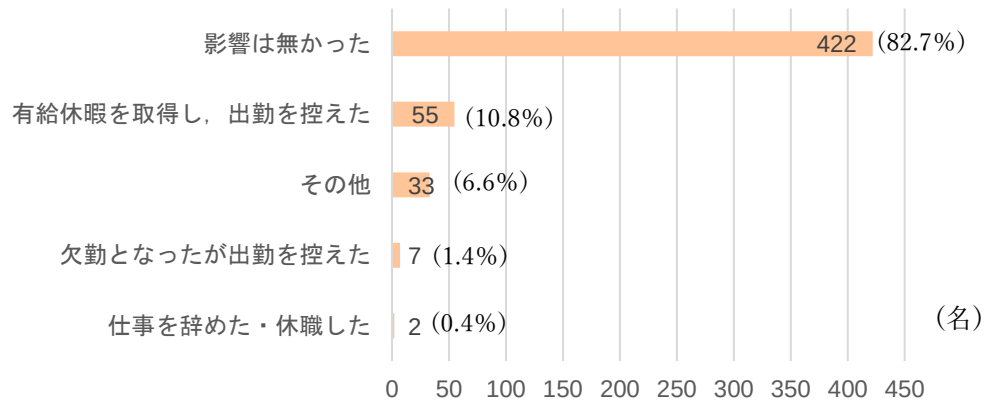
【その他（自由記載欄）】

- ・ 感染を考えると遊びに連れてはいけない、色々な経験をさせてあげられない (3)
- ・ 学校や部活での感染、通学の場面での感染 (1)
- ・ 実家を頼ることができない (1)
- ・ 子供が社会的差別を受けるかもしれない（職場で感染陽性者が発生した場合） (1)

様々な感染リスクを抱えているため、子育て場面への不安が大きなものになっていることが伺える。健康面・精神面への不安だけでなく、職場での感染陽性者が発生した場合や、子供の休校・休園対応、家族が感染した時についてなども不安に感じている会員が多い。第2波、第3波に備え、子供の感染リスクへの対応については、日本小児科学会や日本感染症学会の最新情報を確認し、正しい知識を得て、生活に取り入れると良いのではないかな。

5. 新型コロナウイルス感染症において、貴方の就業への影響はありましたか。どのようなことに影響がありましたか。(複数回答可)

(n=510)

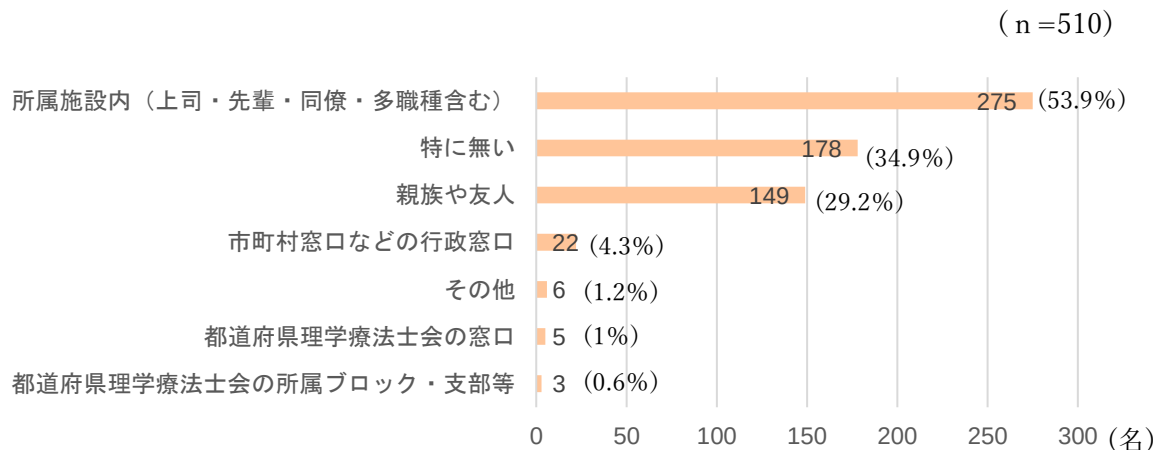


【その他：自由記載欄】

- ・ リモートワーク推奨となった (4)
- ・ 休校・休園等、子供の体調不良に合わせて休業や有給休暇を使用した (4)
- ・ 院内感染、部下の陽性者などあり、遅くまで残り対応に苦慮した (3)
- ・ 雇用対策金は、休みが多くなるため事業所が申請してくれず有給休暇や欠勤となり収入減少等が起こった (2)
- ・ 近くに住む両親が子どもをみてくれたので、働く事が出来た (2)
- ・ 時間帯をずらした分散出勤 (2)
- ・ 保育園や小学校の登園登校自粛要請を考慮し、特別休暇をとった (2)
- ・ リモートワークを行ったが、子供の世話もあり効率的に業務が進まなかった (1)
- ・ 小学校休校に伴う影響 (1)
- ・ 対面の仕事は自主休業とした (1)
- ・ 感染を疑われ、強制的に休まされた (1)
- ・ 外来患者の検温に時間を割かれた (1)
- ・ 兼業先から出勤を断られた。そのため収入 (研究費) が減少している (1)
- ・ 人員不足で忙しくなり、公休も取りにくくなった (1)
- ・ 影響はなかった。子供が休みなので休んであげたい気持ちがあったが、仕事で休んであげられなかった (1)
- ・ 感染対策に神経質になった (1)
- ・ 休業要請 (1)

就業への影響はなかったものが 82.7%と多くを占めたが、影響があったものでは、子供の休校・休園などに合わせて欠勤をせざる負えない会員もあり、収入減になるなど、深刻な内容も含まれていた。また、子供のために休んであげたいが、休めなかったというジレンマに陥っている会員がいることも見受けられた。他の施設の対策などを参考にし、同じ事案が発生した際に少しでも対応への負担が軽減されるよう、情報収集をしておく。

6. 新型コロナ禍の中、子育てに関することで相談できる環境は整っていましたか。
それはどのような環境ですか。(複数回答可)

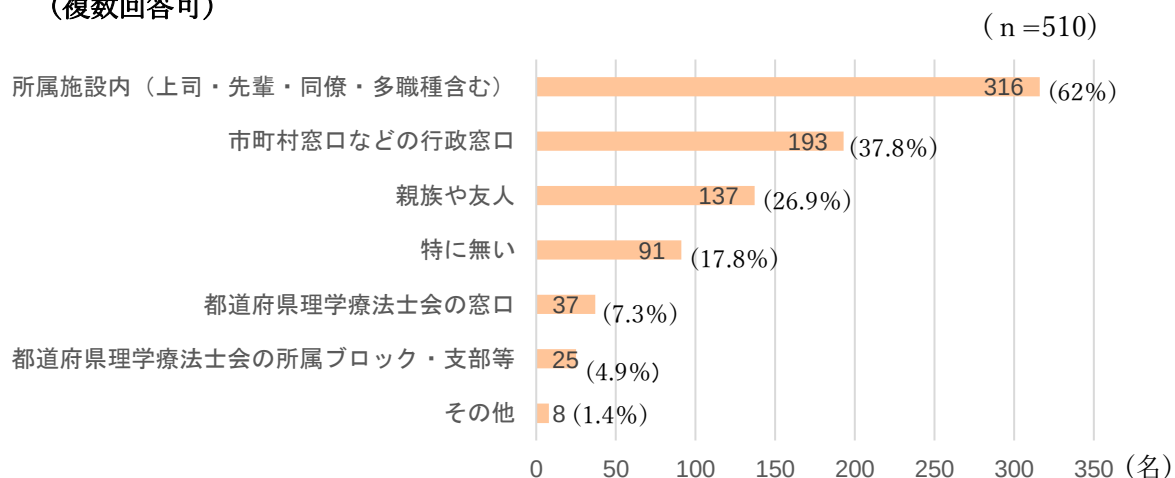


【その他 (自由記載欄)】

- ・ 保育園や小学校、学童の先生方 (4)
- ・ 特に必要としなかった (1)
- ・ 子の同級生の保護者 (1)

所属施設内のスタッフへの相談が 53.9%と最も多く、親族や友人に相談が 29.2%であった。コロナ禍で子育てに関する相談をできる環境を特に持っていないものは 34.9%であった。普段から積極的に相談できる環境を探ることで、コロナ禍のような緊急時にも助け合える環境を作ることができるのではないか。

7. 新型コロナ禍の中、子育てに関することで相談や確認を行いたいときに、どこに依頼できる環境があると、少しでも早く行動が起こせそうですか。それはどのような環境ですか。
(複数回答可)



【その他 (自由記載欄)】

- ・ 子供が通う保育園や学校、学童 (6)
- ・ 労働組合のようなものがあるとよい (1)

自分なりの相談先を見つけている会員も多いが、特にないが 17.8%ある。都道府県理学療法士会の窓口や所属ブロック・支部に相談をしたいという声もあるため、連携を取り合えるシステムの構築が必要かもしれない。また、各会員は、普段から積極的に相談できる環境を探ることで、コロナ禍のような緊急時にも助け合える環境を作ることができるのではないかな。

8. 新型コロナ感染症に関して、不安に思っていることや気になること等、何かありましたらご記入ください。(自由記載)

- ・ 自身の感染への不安や対応、自分が関わってクラスターが発生することへの不安 (12)
- ・ 終わりが見えない不安 (9)
- ・ 病院の収益に影響が出ているので、今後の収入が不安 (8)
- ・ リハは濃厚接触になるが守られてない。体調管理もストレス。 (8)
- ・ 保育園での子供への感染や自身が感染した際の子供への風評被害などの影響が不安 (5)
- ・ コロナウイルスに対する正確な情報の開示や報道が必要 (5)
- ・ ワクチンや治療薬ができていないこと (5)

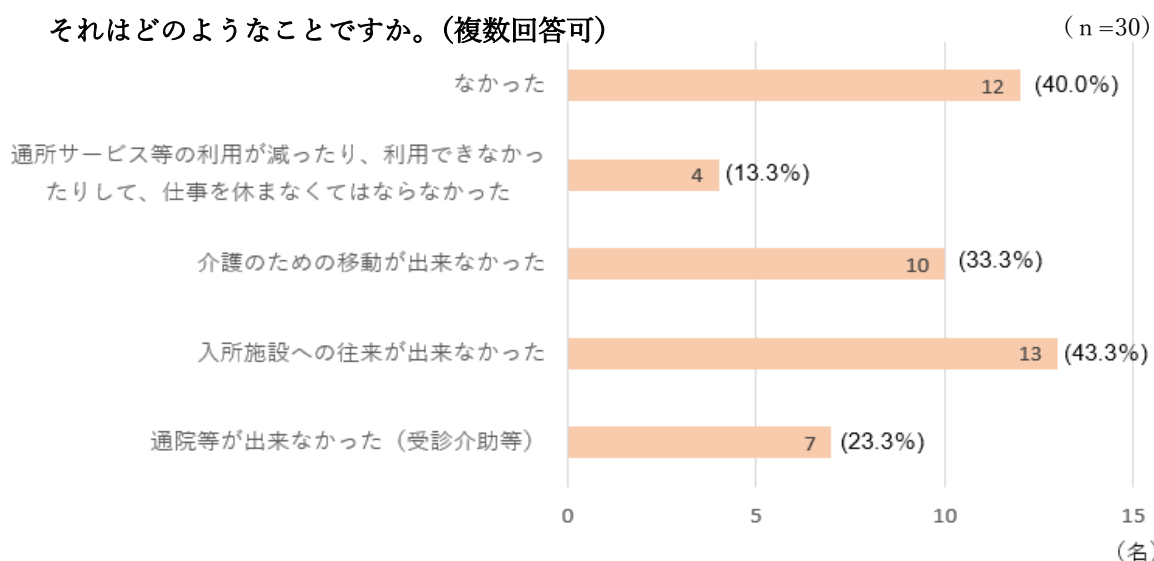
- ・ 風評被害、誹謗中傷 (4)
- ・ 自身や家族が感染し、欠勤した場合の給与や治療費の保証、家族の生活 (4)
- ・ テレビ、新聞の煽り報道、結論ありきの間違った報道(3)
- ・ 一般の人の感染リスクの認識が低いことが気になる。状況により、臨機応変に対応することの手間やストレスがかなりかかっている (2)
- ・ 自身および配偶者、子供が感染した際の対応について。子の世話は誰がどのようにするのか (2)
- ・ 子供が生まれてから半年間、ほとんど外出できておらず、人にもあまりあっていないため、子供の発達に影響が出ないか心配 (2)
- ・ 陽性者や検査上陰性になった患者を受け入れた際の業務運営の基準や指針があるとありがたい (2)
- ・ 他施設がどのような対策をしているのか知りたい。情報交換の場がない (2)
- ・ 日本経済の悪化、治安の悪化 (2)
- ・ 教育への影響について、PT 学生に対する指針が協会から示されるととても助かったと思う。臨床も大学もはじめてのことばかりで非常に混乱があり、今後もまだ続くと思う。養成校独自の取り組みでは学生に対する格差が広がるのではないかと懸念している (1)
- ・ 濃厚接触者との濃厚接触における休業保証 (1)
- ・ 自分や家族が感染した場合に、職場や家族の勤務先・学校等、周囲へかける迷惑が1番気になる (1)
- ・ 入所と通所のリハ室を分けるため、入所者が現在使用していない風呂場でリハをしていて、リハの質の低下してしまうこと (1)
- ・ 教育としては、感染についての授業、特に理学療法に関する感染対策の専門授業を設ける必要があると考える。卒業を控える学生は、実習を経験していないため、かなりの不安があると思う。いずれ患者を担当する実習はできなくなるのだから、卒後教育の充実と、大学教育内容の見直しを図るべきだと思う(1)
- ・ 理学療法士として患者、利用者中心の業務になることは仕方ないが、職場内において管理業務や経営方針や新規事業開拓など幅広い視野と知識がないと存在価値が認められない時代になっていると考える。受け身の体制から脱却して自治体事業や自由診療も含めたビジョンを形成することが必要 (1)
- ・ 理学療法士の支援対象としての「地域」が、企業の倒産や住民の心境の変化などによって急激な構造変化を余儀なくされるのではないか。また、そのような時に理学療法士は何ができるのか (1)
- ・ 感染後に復職出来るか不安である (1)

- ・ 研修会のオンライン化。会費を払っているが、何もできていない (1)
- ・ 臨床実習受け入れ・採用等の制限 (1)
- ・ 感染者数の増加 (1)
- ・ 休校中の休みが取りにくい (1)
- ・ 所属施設以外あてにならない (1)
- ・ 子供が他県の受験をする予定だが、他県に連れていくと仕事を休まなければならない可能性があり、どうやって連れていくかを考える必要がある。(1)
- ・ 行政の初動対応が遅い(動き始めてからは早い) (1)
- ・ 病院の減収や医療従事者に対する国や都道府県の補償の不透明さや少なさ (2)
- ・ 職能団体と言いながら、会員が困っている時に協会・士会は本当に何も役に立たないんだなぁと実感した。コロナで試用期間切りに合っている若手理学療法士が複数いることに対して相談窓口の一つも設けないのはがっかりした (1)
- ・ 特に教育費が必要なので、休業補償(給料10割)がないと休めない (1)
- ・ 連休も勤務したにもかかわらずボーナス減額など、肉体的・心理的負担に見合わない給与が続くことに不安が拭えない (1)
- ・ 職業柄半年以上外食できておらず辛い (1)
- ・ 今後の感染者が増えた場合、現在の様な指定病院だけでなく、地域のクリニックや自分の勤務する病院でもコロナの患者を受け入れることになるのか不安 (1)

VI. 介護への影響について

1. 新型コロナウイルスに関し、介護への影響などの影響はありましたか。

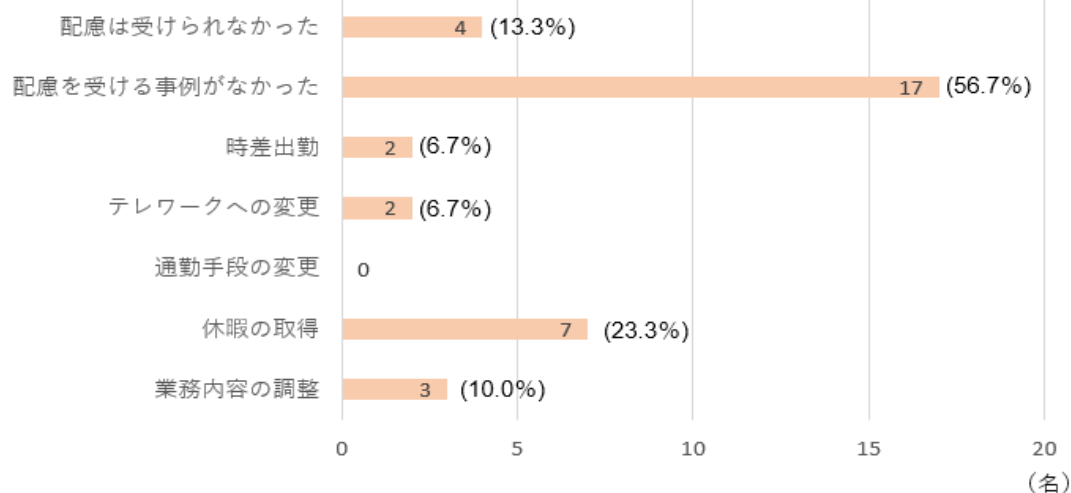
それはどのようなことですか。(複数回答可)



影響がなかったという回答者 12 名の地域差（県単位）は特になかった。サービス利用制限にて仕事を休む必要があった会員もあり、こういった際の職場内での対応が課題。面会や受診における ICT 対応ができるような準備を進めたり、情報提供も必要。また、事前に職員の家庭環境などを話し、把握する事もこういった事態の際にお互いが協力できることに繋がる。

2. 職場において、配慮を受けることができた点についてお答えください。

(n=30)

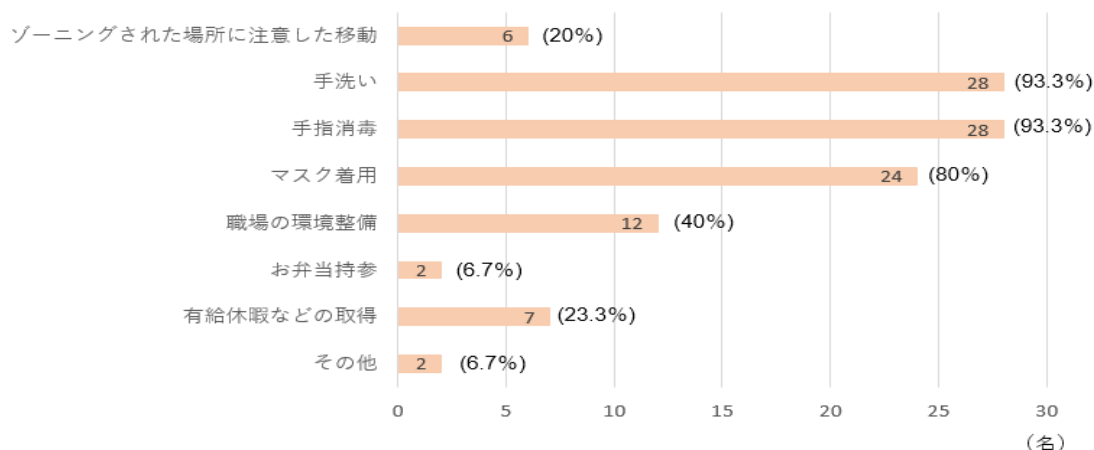


配慮を受けた項目として、休暇の取得や業務調整などが主にあがっている。配慮を受けられなかったとの報告もある。原因が職場環境（人員不足など）といった物理的なものなのか、雰囲気などの問題なのか不明であるが、こういったアンケートの結果をもとに、それぞれの施設で振り返る機会を設ける必要がある。

3. 介護中であることにより、感染対策として特に気をつけたことをお答えください。

(複数回答可)

(n=30)

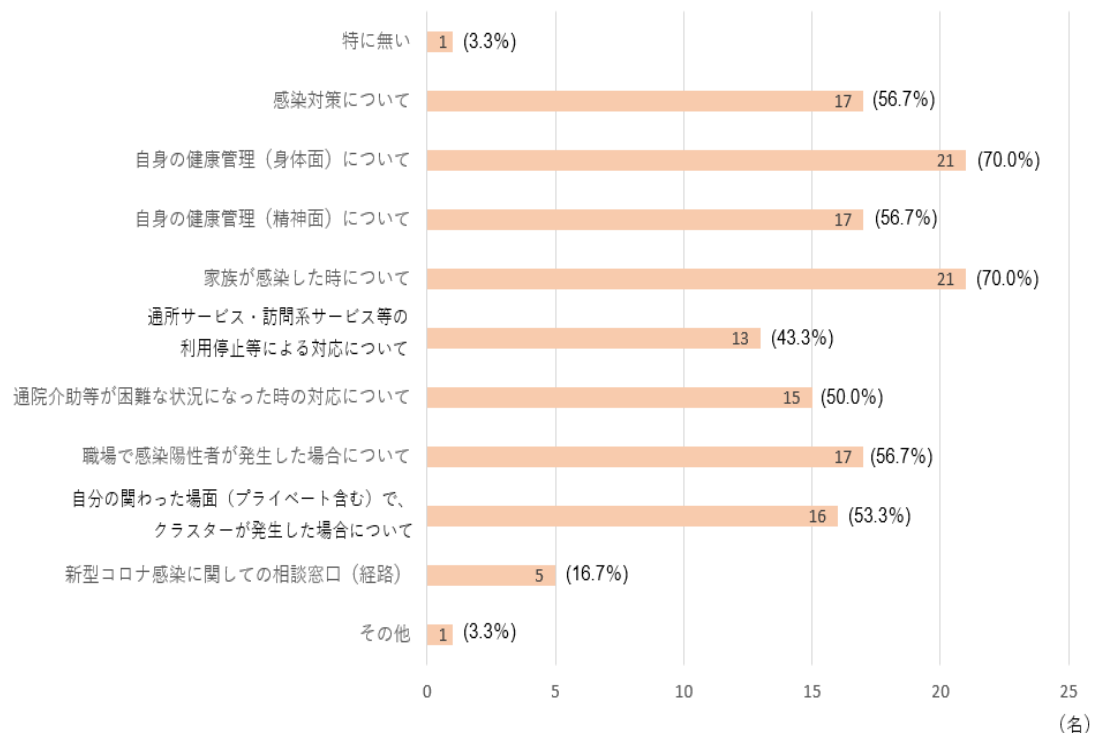


【その他（自由記載欄）】

- ・ ソーシャルディスタンス
- ・ 介護中にかかわらず通常の予防同様

基本的な手洗い、手指消毒やマスク着用は行えていることが示唆されたが、マスク着用が若干少なかったのは、マスクが不足していたことも影響していることも推測される。介護者がいる自宅などに帰宅する際に、感染リスクを少しでも減らす対応が必要。職場環境における詳細なマニュアルの準備徹底も必要である。

4. 新型コロナ感染症に関連して、今後、介護の場面での不安や悩みはどのようなことですか。 (n=30)



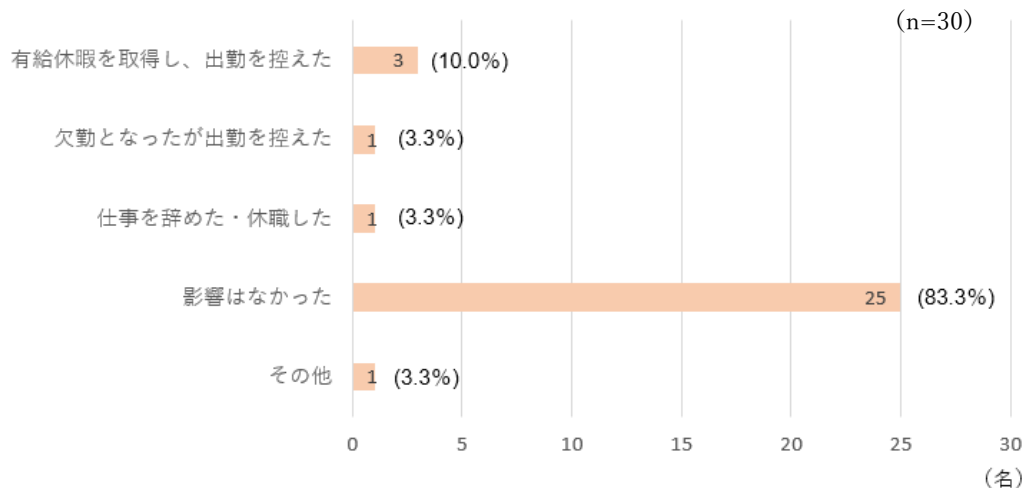
【その他（自由記載欄）】

- ・ 自分が感染者になること

感染者が発生した際の不安を訴える回答が多い。課題としては潜伏期間などもあるが、感染者との関連を早期に知ることが重要であり、感染拡大防止アプリなどを活用することが対策としてあげられる。介護者の存在を可能な範囲で事前に職場内で共有し、職場と自宅の往来の際に、入念な感染防止対策の徹底が重要になってくる。

5. 新型コロナウイルス感染症において、貴方の就業への影響はありましたか。

どのようなことに影響がありましたか。



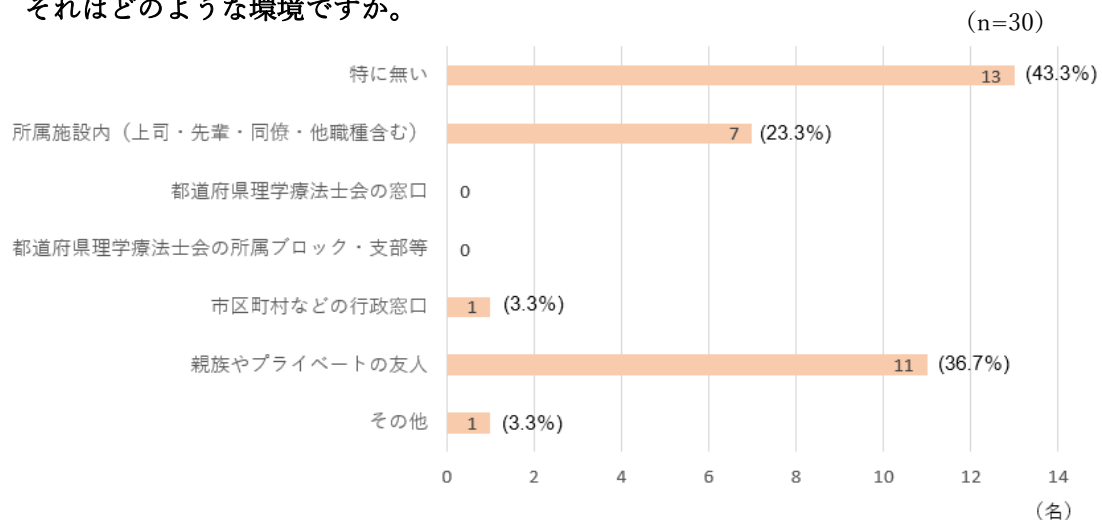
【その他（自由記載欄）】

- ・ 休憩時間や病棟の閉鎖など、影響はたくさんありました

回答者の殆どが影響はなかったとの回答であるが、仕事（パート）を辞めた、休職した会員がいた事実があった。課題として、そういった会員を出さないためにも失職（休職）するに至らないような救済措置がなかったのか。救済措置に関する情報など、会員にとって有用な情報発信も積極的に行うことが必要である。

6. 新型コロナ禍の中、介護に関することで相談できる環境は整っていましたか。

それはどのような環境ですか。

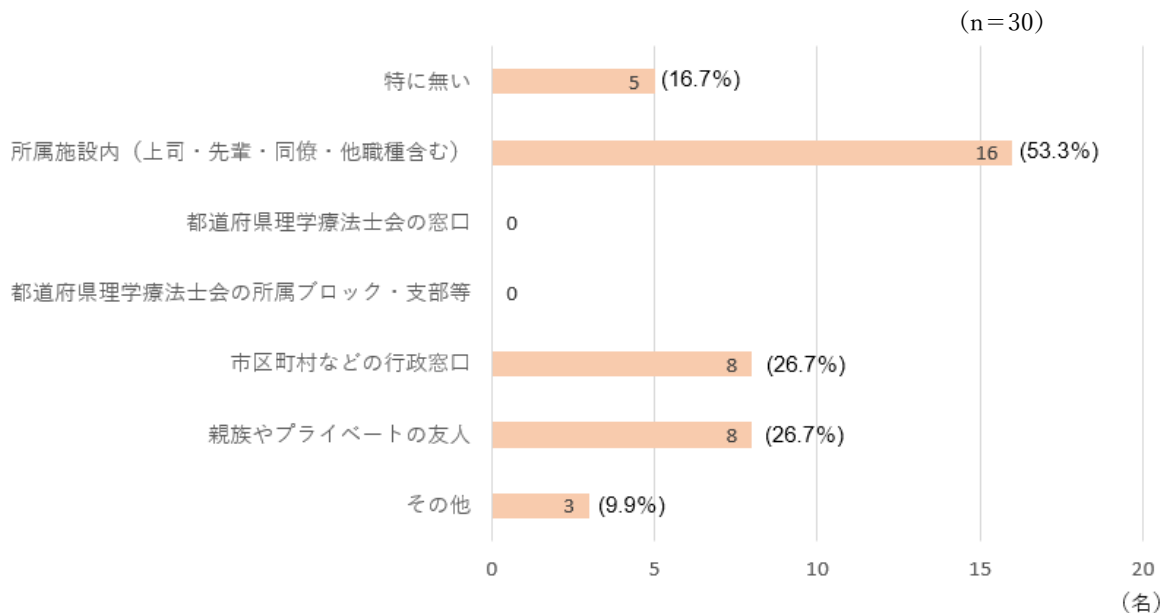


【その他（自由記載欄）】

- ・ 担当ケアマネジャー

親族やプライベートの友人への相談が多く、次いで職場内。介護ということで、状況によってはなかなか職場での相談が行いにくかったことも想定され、デリケートな部分もあるが仕事上の協力を得られやすく準備するためには、管理者等には前もって伝えることも必要であり、普段から話しやすい職場づくりが重要。

7. 新型コロナ禍の中、介護に関することで相談や確認を行いたいときに、どこに依頼できる環境があると、少しでも早く行動が起こせそうですか。それはどのような環境ですか。



【その他（自由記載欄）】

- ・ 担当ケアマネジャー（2）
- ・ 利用施設

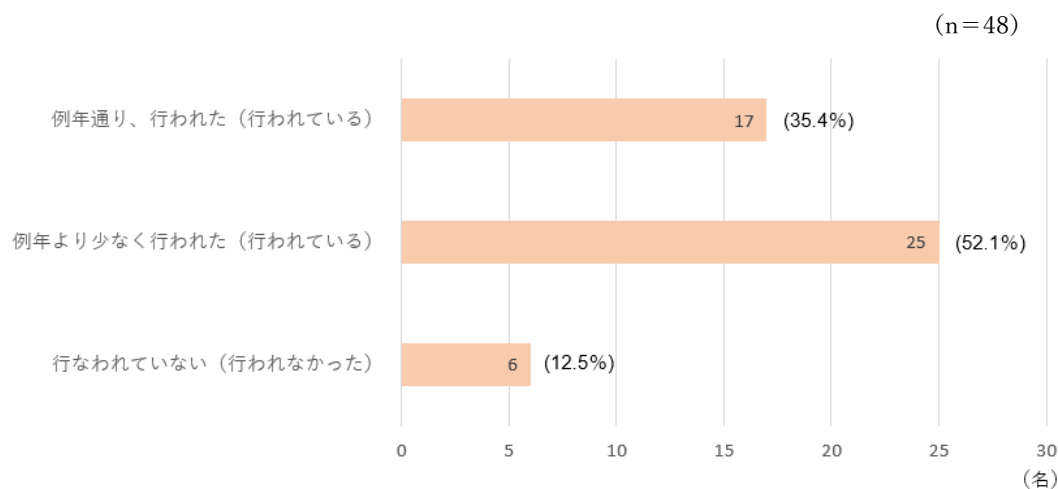
所属施設内に依頼を求める回答が多く、行政窓口と親族や友人が次いで多かった。平時からこういった場合に相談ができる窓口の設置を求めたり、これまでに対策であがっていた職場内での情報共有が必要。まずは、各地域の行政の相談窓口の有無等も事前に調べる必要がある。

8. 新型コロナウイルス感染症に関して、不安に思っていることや気になること等、何かありましたらご記入ください。(自由記載)

- ・ 予防対策の質問であったが、予防対策は環境上十分行えていると思っている。
しかし、自分が不可抗力にも感染者になった場合、どうするのかその対策が遅れていると感じている
- ・ 終わりが見えない (3)
- ・ 介護休暇をもう少し取りやすくしてほしい

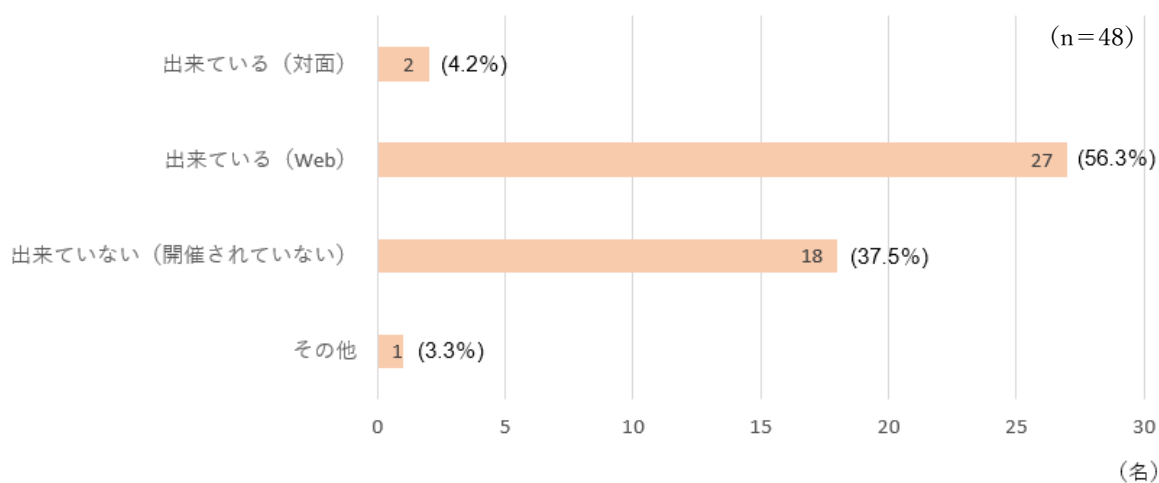
VII. 新人（入職1年目）への影響について

1. 職場内新人教育・研修は、行われましたか。



半数以上が例年より少なく、行われていないケースもあった。課題としては、例年より少ない状況で実務に関する影響がないのか、半数以上が例年より少ない中で補填をどうするのかなどがあげられる。対策としては、各施設での卒後教育プログラムを支援する対策の検討が必要になってくる。そういった意味でも新生涯学習プログラムは重要。自施設での指導者が在籍していればよいが、そうでない施設（1人職場など）への対応の検討が必要である。

2. 職場外研修・講習等（都道府県理学療法士会主催等）は、受講できていましたか。

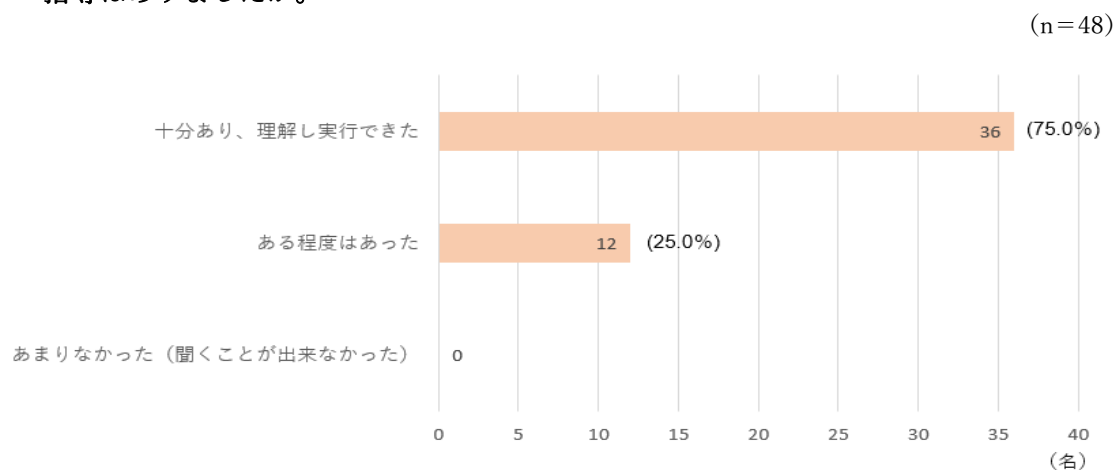


【その他（自由記載欄）】

- ・ 入職1年目だが免許取得から3年目のため受講していない

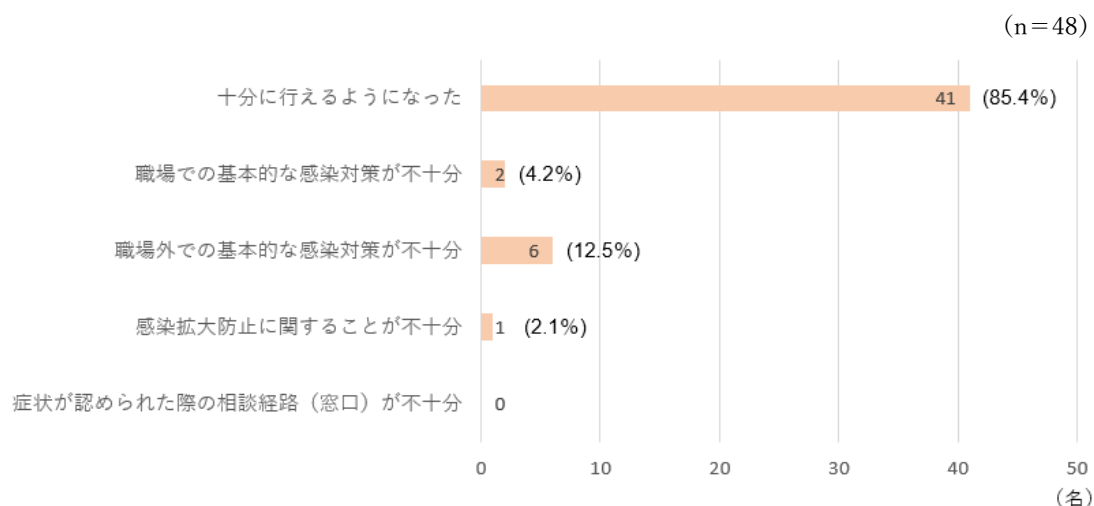
半数以上がwebにて研修会に参加できている。少数ではあるが、対面での研修会参加もできている。課題としては、web研修会が多くの場合で見られているが、全く経験していない（できない）新人がいるのではないかという点。今後、web研修会が実施されるなかで、乗り遅れる新人がいたりすると卒後教育、生涯学習にも影響が出てくる心配もある。対策としては、web研修会の参加や実施方法などの啓発活動、特に地域・ブロック帯でのコミュニティー形成や強化を進めていく必要がある。

3. 新型コロナの発生により、勤務先や先輩（1人職場の場合は他職種）からの感染対策指導はありましたか。



各所属施設にて、何らかの感染対策指導は行われている。課題として、患者と特に濃厚接触者となるセラピストの感染者を出さないための感染対策マニュアルなどがあっても良いのではないかと考える。対策として、本会から情報発信されているものを今後もアップデートし、その情報を会員がしっかり把握できるような取り組み、会員自体の認識や意識向上が必要である。

4. 新型コロナ感染症に対してのご自身の感染に対する知識・技術は、今現在、十分に行えるようになりましたか。行えるようになっていない場合、どのようなことが不十分ですか。



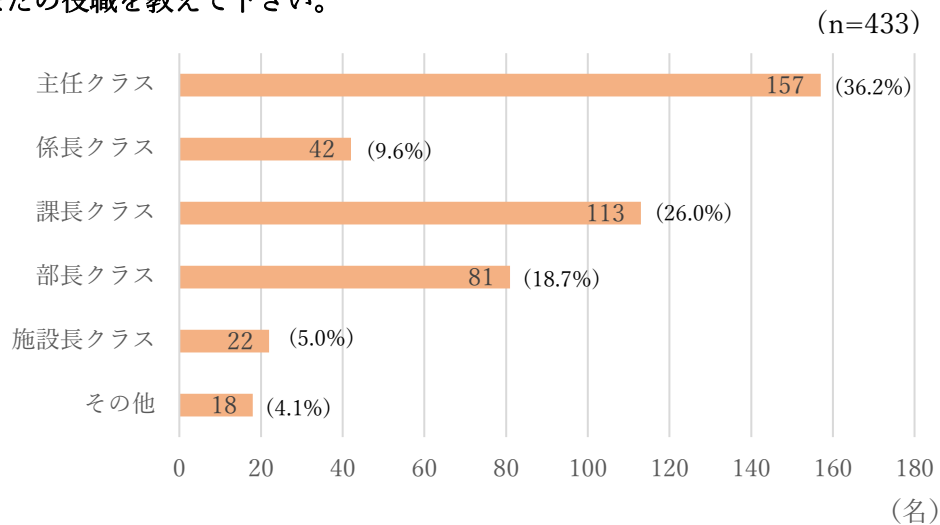
8 割を超える人が十分行えるとの回答。少数ではあるが、不十分と感じている内容もある。課題として、職場外になると、対策を施すための環境が整わない場合もあり、心情的にも緩む場合があるのではないかと考える。対策としては、精神論にはなるが、医療人としての意識を高く持ち、各地域での感染状況などを把握し、こういった行動をとることができるかなど、事前の準備が重要である。

5. 新型コロナ感染症に関して、不安に思っていることや気になること等、何かありましたらご記入ください。（自由記載）

- ・ もし自身が感染してしまった場合の不安感がある
- ・ いつの間にか自分が感染しており、誰かに移してしまわないかという不安がある
- ・ いつになったら実家に帰れるのか

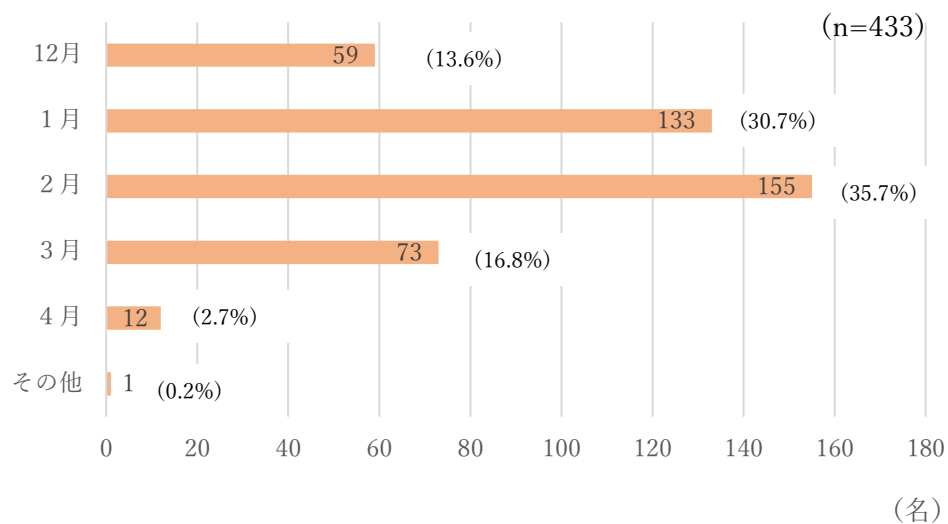
VIII. 管理者への影響について

1. あなたの役職を教えてください。



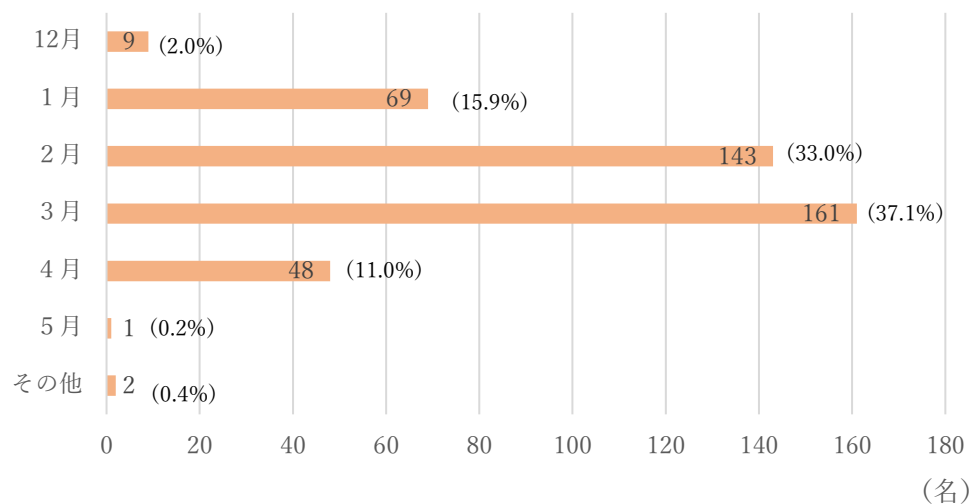
主任クラス、課長クラス、部長クラス、係長クラス、施設長クラスの順で、多い割合となった。やや中間管理職が多い結果となった。その他には、経営者、役員などであった。

2. 新型コロナウイルス感染症に対しての情報収集を始めたのは、いつ頃でしたか。



3. 新型コロナ感染症に対しての対策を始めたのは、いつ頃でしたか。

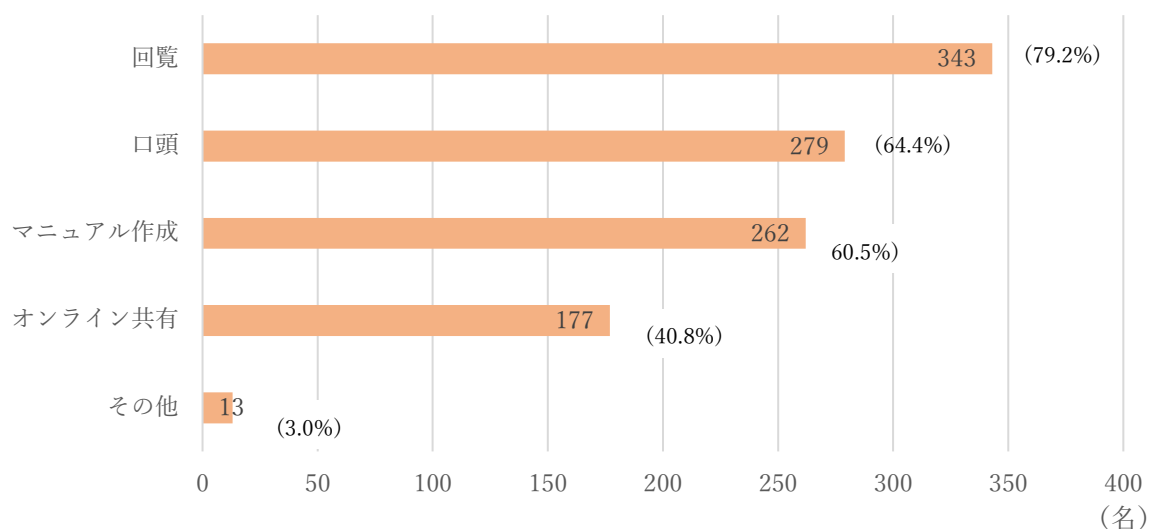
(n=433)



情報収集開始のピークは、2月のWHOが、COVID-19と命名した時期にあり。対策を開始した時期は、その後の3月の各国外出制限が一番多かった。どちらもピーク前後も多く、地域差もあることが考えられた。

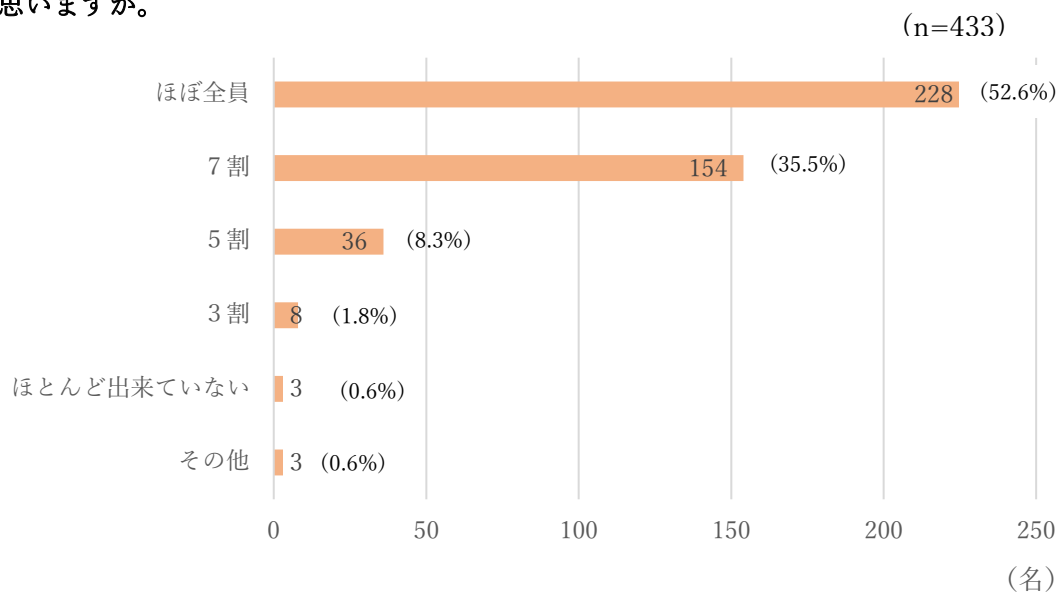
4. 新型コロナ感染症の情報を、どのように職場で共有しましたか。(複数回答可)

(n=433)



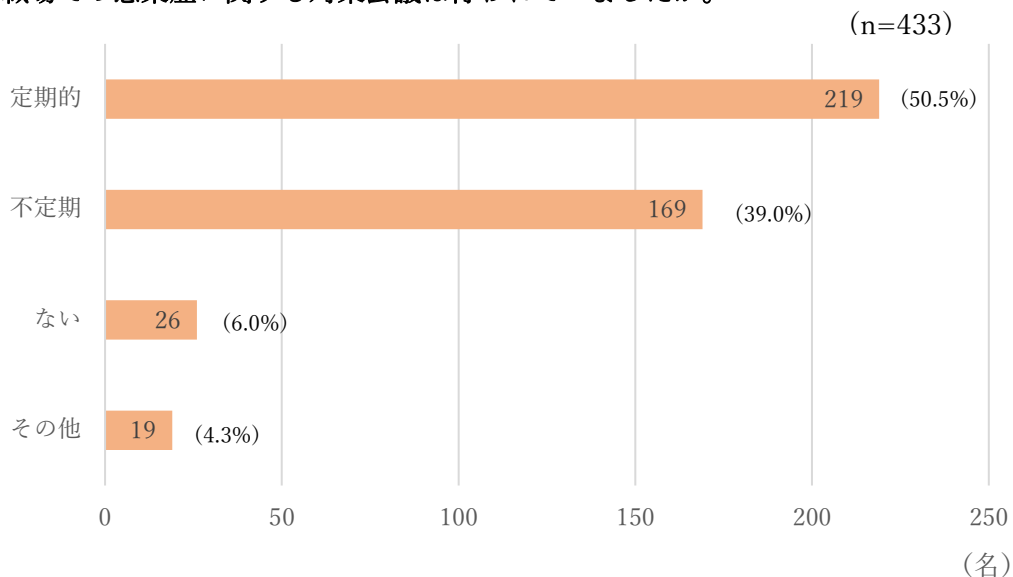
情報共有方法は、どの項目もn数に対する割合が40%を超えており、複数の手段で情報共有をし、情報を正確に伝達しようとした様子が伺えた。

5. 先の共有した情報は、リハ科等の貴方の所属部署に属する全職員が理解していたと思いますか。



半数を超える所属部署では、ほぼ全員理解していると管理職は認識していた。
しかし、5割・3割の理解・出来ていないを合わせて10.7%あった。

6. 職場での感染症に関する対策会議は行われていましたか。

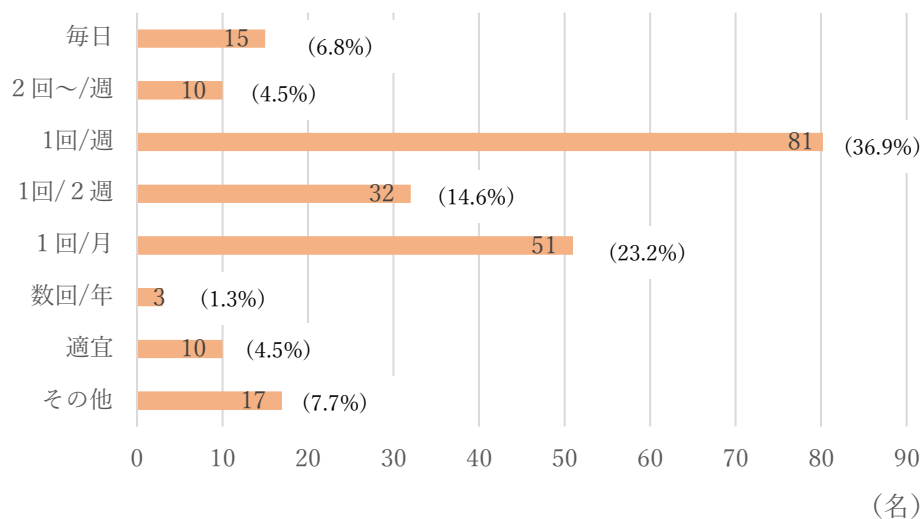


定期的に会議が行われていた職場が半数であった。不定期に実施されていた職場も合わせると会議を行っていた職場は89.5%であった。

7. 先の質問で、「定期的に行われている」と回答された方にお聞きします。

その会議の頻度を教えてください。

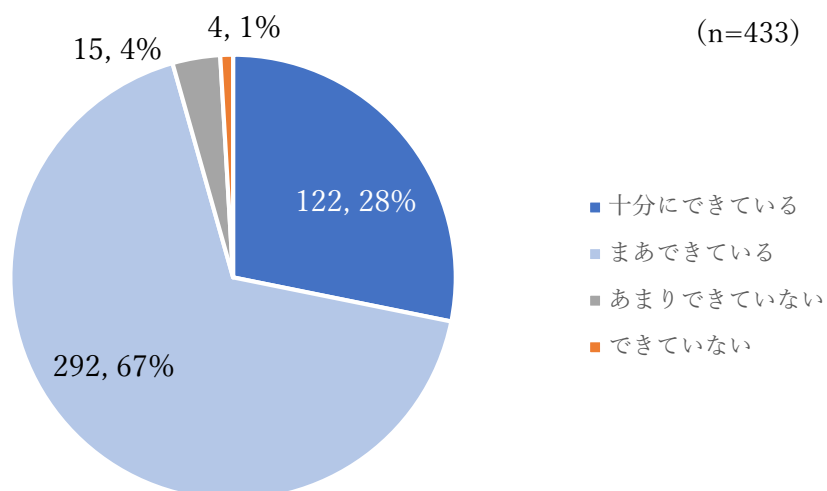
(n=219)



1週間に1回が最多であった。毎日や1週間に複数回から月に数回とばらつきが見られた。地域差、病院間での状況の違いが影響していることが示唆された。

8. 新型コロナ感染症に関する情報は、更新しながら共有できていたと思いますか。

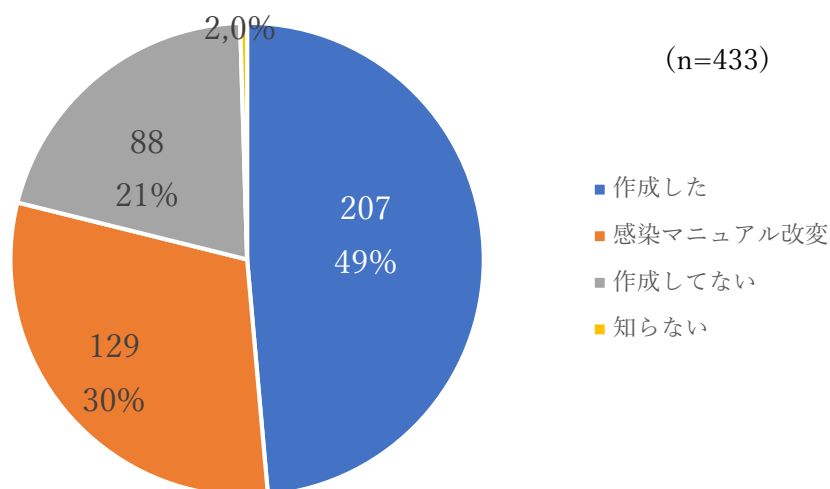
(n=433)



情報共有は、95%の管理者ができていると認識していた。

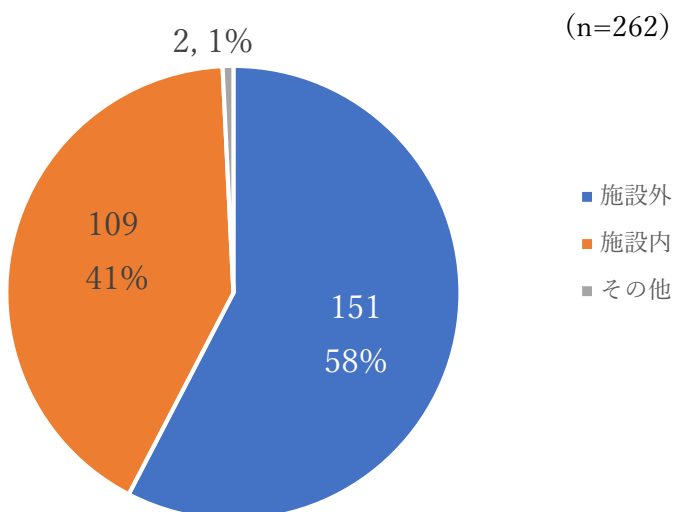
情報が変わっていく中で、情報の更新を意識していたことが伺えた。

9. 新型コロナウイルス感染症に関するマニュアルを作成しましたか。



マニュアルは、作成した・感染マニュアル改変を合わせると 79%とであった。
 新型コロナウイルス感染症に対して何かしらの対応をした職場が多くあった。

10. 先の質問で「作成した」とお答えの方にお聞きします。作成されたマニュアルの範囲はどこまでのことですか。



マニュアルの範囲が施設外に及ぶ職場が、58%であった。
 多くの職場で、私生活での行動の制限などがあったと伺える。

11. 先の質問で「病院外での行動まで規定した」とお答えの方にお聞きします。

それは、どのような内容でしたか。(カッコ内は、回答件数)

- ・ 何かしらの条件があった (161)
- ・ 行政の条件に従って
- ・ 養成校のため、実習時の対応について

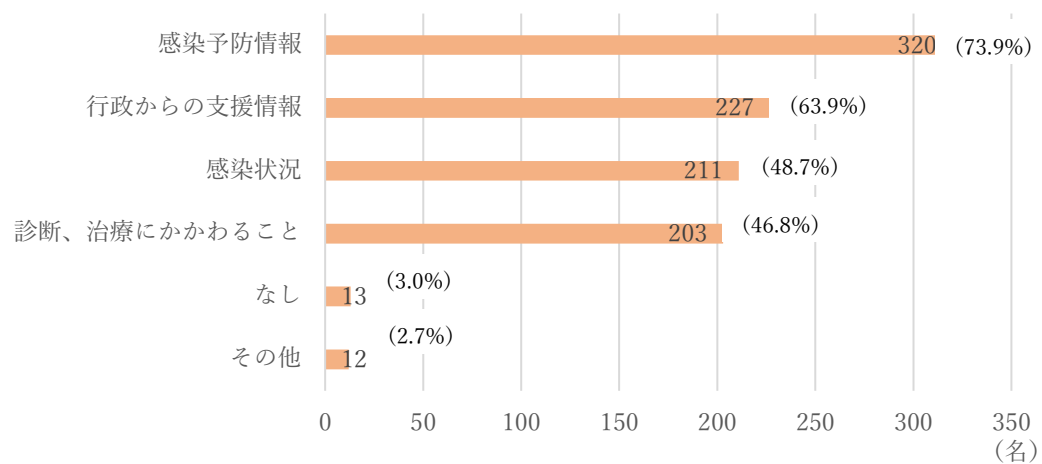
12. 先の質問で、「何かしら条件があった」とお答えの方にお聞きします。その内容を具体的に教えてください。(自由記載) (カッコ内は、回答件数)

- ・ 県外への移動制限 (18)
- ・ 自宅外でのプライベート活動の制限 (8)
- ・ 大勢での会食を制限 (4)
- ・ 冠婚葬祭は、2等親までは参加可能 (3)
- ・ 3密を避ける。職場以外の場合でも、医療人としての自覚を持った行動をする (2)
- ・ 参加人数の制限 (2)
- ・ 県外へ出るときの申告、3日以上自宅を離れる際の申告 (2)
- ・ 届け出の義務・体調管理強化等
- ・ 感染流行地域への外出の自粛
- ・ 都内への不要不急の出入りを禁止 (県外への移動には十分注意を要する)
- ・ 交代制勤務
- ・ 世間以上の行動自粛
- ・ 行動の自粛に関すること
- ・ 強制はできない。しかし、同じ認識が必要 (行動・活動範囲等)
- ・ 移動した時には戻ってから2週間の自宅待機
- ・ 家族も含んだ県外移動時の対策・行動条件
- ・ 実習施設での対応
- ・ 海外渡航、旅行先、などの行動範囲の規定
- ・ 家族以外との会食禁止
- ・ 子供の帰省に関して
- ・ マスクを外しての会話の自粛、同居家族以外の接触の自粛

<マニュアル作成について>

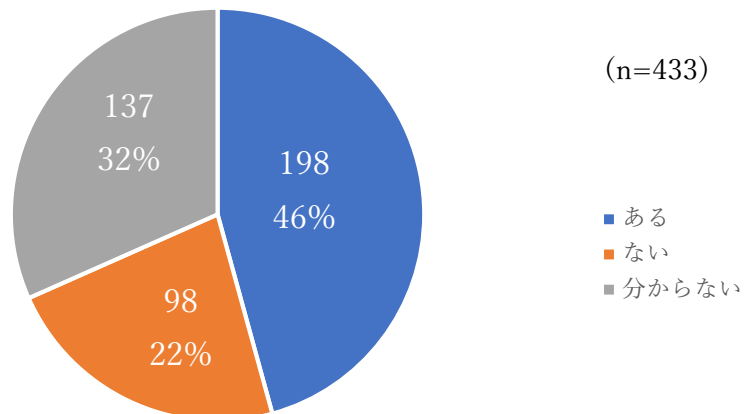
新型コロナウイルス感染症に対して、新たにマニュアル作成をしたのは管理職のうちの66%であった。また、新たにマニュアル作成したうち61%が施設外までに及ぶ内容を定めていた。施設外でに関することは、多くが行動制限に関わるものであった。中には、家族の行動制限に及ぶものもあった。また、県外へ出る際には報告を義務付けている施設もあった。

13. 協会や都道府県士会から、提供してもらいたい新型コロナ感染症に関する情報について教えてください。(複数回答可) (n=433)

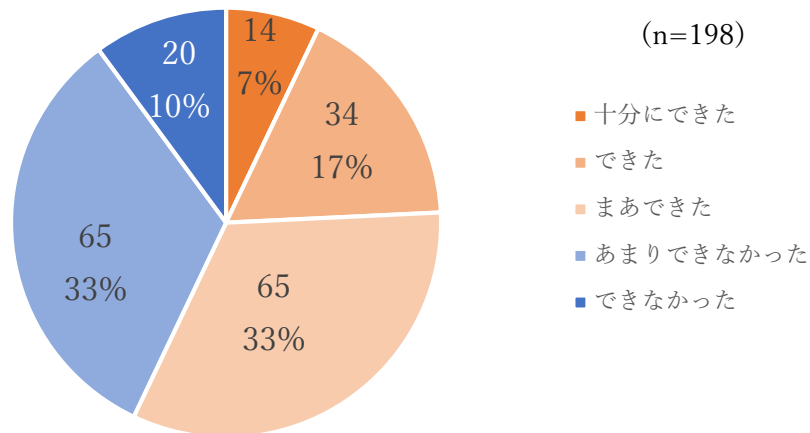


どの項目も、ある一定数の要望があった。
どの職場でも包括的な情報提供を必要としていた。

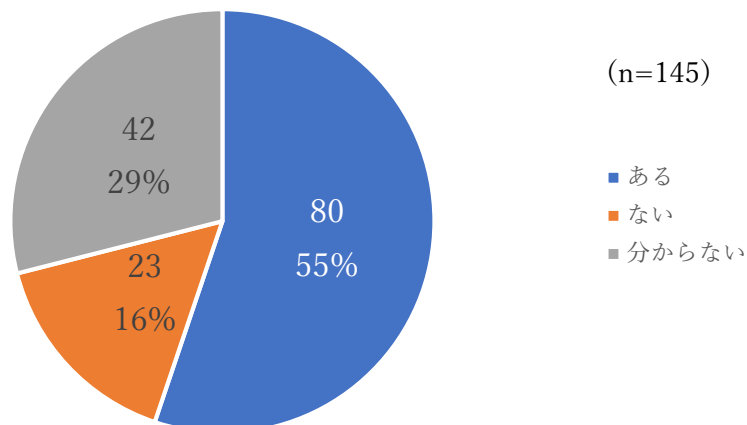
14. 所属する都道府県士会や、そのブロックや支部単位での情報共有のための連絡網などのネットワークはありましたか。



15. 先の質問で「ある」とお答えの方にお聞きします。そのネットワークは十分に活用できましたか。



16. 2つ前の質問で、ネットワークは「なかった」とお答えの方にお聞きします。ネットワークの必要性を感じましたか。



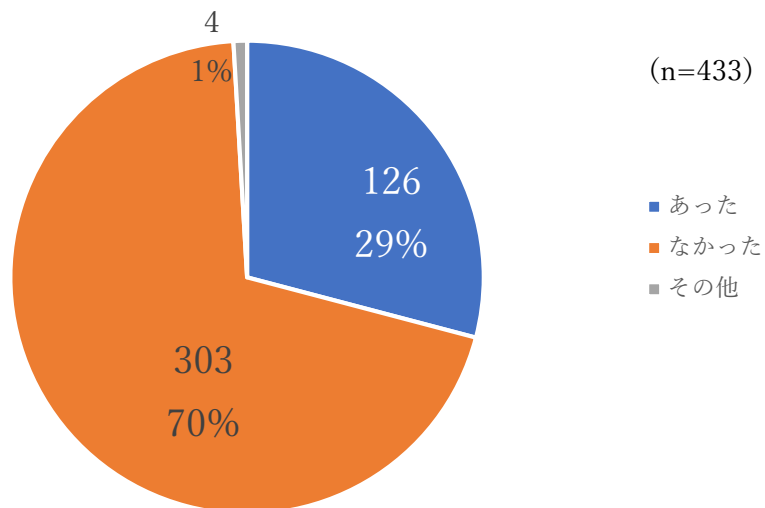
<ネットワークに関して>

各士会、ブロックなどでのネットワークについて、「ない・分からない」と回答した管理者は、54%であった。ネットワークが「ある」と回答した管理者でも、今回の新型コロナウイルス感染症においてネットワークを活用できなかった割合が43%であった。

「ない・分からない」と回答した管理者は、55%がネットワークの必要性を感じていた。

ネットワークが「ある」と「ない・分からない」の地域差の傾向は、今回のアンケート結果からは確認できなかった。同じ県内でも、あると答えている管理者とないと答えている管理者が存在したために、県内でもネットワーク構築に施設間での差が生じていることが示唆された。

17. スタッフ（家族含む）の体調不良による休みの影響で、管理する勤怠調整で苦慮する場面がありましたか。



18. 先の質問で「あった」とお答えの方にお聞きします。具体的にどのような対応をされたのかを教えてください。

- ・ 休暇の取得
- ・ 患者ひとりあたりの単位数減、または管理職等の勤務変更
- ・ 感染の疑いがあった場合に、スタッフの配置を検討することになった
- ・ 単位調整や患者のリハ休みを行った
- ・ 欠勤者の持ち患者振り分け
- ・ 病院判断での特別休暇
- ・ どの状態で復帰可能とするか
- ・ 家族が発熱した場合の対応。病院受診にて診断名をもらって、出勤を検討
- ・ 体調不良の際、職場としての対応
- ・ ギリギリの人員で運用しているため
- ・ 発熱時の休みなどに対する勤務変更

19. 勤怠調整以外で、スタッフや職場に関して、管理職として苦慮した、調整したなどということがあるば、教えてください。

- ・ 感染者が出ていない状況であったため、スタッフの一部に危機感に対する温度差があり、マニュアル等の周知徹底すること
- ・ スタッフの勤務人数調整
- ・ 休暇、患者サービス、収益性のバランス
- ・ コロナ対応病棟に属するリハスタッフの精神的フォロー
- ・ 大所帯なので、末端まで指示を伝えるのに苦慮した
- ・ 職場の職員家族が感染し、職員との接触者の対応
- ・ 家族の発熱のたびに出勤してよいかの確認の電話がかかってくる。（職員本人の体調不良、もしくは家族が保健所からの行政指導で感染者・濃厚接触者として認定された場合は、事前に連絡するようということとは全職員が認識しているが、心配になり、連絡をしてくるようです）
- ・ 感染予防対策の指針を決めること（医療と介護サービスの両方）BCP 計画（コロナ編）の周知
- ・ ゾーニングや感染予防行動の徹底と周知
- ・ 地域活動への協力と理解と感染予防
- ・ ソーシャルディスタンス中での新人との距離やコミュニケーションの取り方
- ・ プライベートの制限を依頼することについて
- ・ 利用者数の調整など
- ・ 濃厚接触疑い者への勤務調整
- ・ PCR 検査を受けたスタッフへのフォロー
- ・ どの程度の体調不良を休みとするのか、一連の報告方法や対応方法のマニュアル作成
- ・ 他事業との連携（担当者会議、訪問など）が難しく情報収集量が少なくなった
- ・ ホームワーク中の情報共有に苦慮しました
- ・ 職員の感染に対する不安への対応
- ・ 保育園や学校が休みになり、出勤調整が大変だった
- ・ 外出自粛などを伝える

20. 新型コロナ感染症に関して、不安に思っていることや気になること等、何かありましたらご記入ください。(自由記載)

- ・ 出口が見えない。症状のない陽性者がいる。いつどこで感染するかがわからない
- ・ 状況で、日々緊張感を持ちつつ就労しており、精神面の安定をどう図るか（スタッフ含め）
- ・ 継続実施の必要な外来患者が来院を控えており（医師の指示、自主的）、定期的な便りを送って対応しているが、その方々の状況が心配
- ・ 感染に対する感度を上げてくれているのは好ましいが、職員に体調不良があると短絡的に新型コロナウイルス感染ではないかと思ってしまうの行動の制御がある。患者さんで熱中症も散見されてきており、医学的知識のないままで、噂話を信じてしまう職員の対処にも苦慮していた
- ・ 院内に感染者が出ること
- ・ 今後、平常へ戻ることがあるのか？ 本当に WITH コロナとしてある程度制限された新生活を考慮していかななくてはならないのか？
- ・ 院内に感染を持ち込む事
- ・ 終息が見えないこと
- ・ スタッフ（若手）のストレス。歓迎会もしてない
- ・ 終息の時期とワクチンや治療法の確立などの時期について
- ・ いつまで続くのか…対策を練っても発生した際に結果的に責任の所在を求められるのか…など
- ・ 職場で発生した場合の嫌がらせや風評

<新型コロナ対策本部 理学療法業務担当 働き方作業部会 委員>

担当副本部長

森本 榮（日本理学療法士協会 副会長）

委員長

谷口 千明（医療法人 順天会 放射線第一病院）

委員（五十音順）

波多埜克宜（医療法人 相生会 にしくまもと病院）

平澤小百合（介護老人保健施設 阿南名月苑）

平野 偉与（医療法人社団 成仁会 市ケ尾病院）

森 明子（兵庫医療大学）